

平成22年度

神奈川県立体育センター研究報告書

県民の体力・スポーツに関する調査

— 県民の体力・スポーツに関する実態の推移をとおして —

(単年度研究)

神奈川県立体育センター

事業部生涯スポーツ課 スポーツ推進班

目 次

テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

目的・・ 1

研究の内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

結果及び考察

- 1 成人の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合（神奈川県・全国）・・・ 4
- 2 成人の週1日以上運動・スポーツを行った割合の
神奈川県と全国との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 世代別の1年間に行った運動・スポーツの日数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 30代に見られる他の世代との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 5 地区別の1年間に行った運動・スポーツの日数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 6 西湘地区に見られる他の地区との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

今後に向けて・・ 33

参考文献・・ 33

県民の体力・スポーツに関する調査

－県民の体力・スポーツに関する実態の推移をとおして－

スポーツ推進班 大石泰平 市川嘉裕 小峰譲二 亀谷学 布施誠之

【テーマ設定の理由】

神奈川県及び神奈川県教育委員会では、「スポーツのあるまち・くらしづくり」を基本理念として、県民の皆さんが、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現するために、神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」を平成16年度に策定しました。その後、具体的な施策については、第3章の「当面の取組」として、平成18年度までに実施または実施予定の取組を示しましたが、平成18年9月に改定された国のスポーツ振興基本計画や、平成19年7月に策定した県の総合計画「神奈川力構想」などと整合を図るために見直し、改定されました。

基本理念である「スポーツのあるまち・くらしづくり」をもとに、具体的なコンセプトを「楽しみ」「健康」「交流」としたうえで、目指す姿を子どもから高齢者まで、みんなが元気に笑顔で、外遊びや運動、スポーツを「する」「みる」「支える」ことができるような社会の実現が望まれることを示しています。また、平成27年度を目標年度とし、成人の週1回以上のスポーツ実施率を2人に1人（50%）以上にすることを目指しています。

神奈川県では平成13年度に「県民の体力・スポーツに関する調査」を、スポーツ振興施策の基礎資料とするために実施しました。平成18年度にも同様の調査を行い、そして今年度3度目となる同様の調査を実施しました。

本研究では今年度調査および平成18年度調査、平成13年度調査で実施した調査回答の推移を比較し、県民の健康・体力観や運動・スポーツの実施状況、運動・スポーツクラブなどの項目について比較し分析を加えることにより、今後の生涯スポーツ社会の推進に向けた、地域スポーツ振興の手段方策を検討していく資料の一つとするために本テーマを設定しました。

【目的】

平成22年度「県民の体力・スポーツに関する調査」と、平成18年度調査及び平成13年度調査のそれぞれの結果を比較することにより、生涯スポーツ社会の実現を目指したスポーツ振興施策作成等の参考となる基礎資料を得る。

【内容及び方法】

1 研究期間

平成22年4月1日～平成23年3月31日

2 研究の方法

- (1) 文献研究
- (2) 資料、調査項目等の検討
- (3) 資料収集（平成13年度調査平成18年度調査）
- (4) 質問紙法によるアンケート調査
- (5) 集計・処理
- (6) 結果の分析・比較及び考察や課題等の検討

3 研究の内容

アンケート調査結果及び分析による県民の体力やスポーツに関する実態の推移

4 「県民の体力・スポーツに関する調査」について

(1) 調査対象者

神奈川県に居住する満20歳以上(平成22年4月1日現在)の男女個人3,000人
(層化二段階無作為抽出)

(2) 標本数

有効回収標本数：1,359サンプル

有効回収率：45.3%

(3) 調査期間

平成22年7月～8月

(4) 集計上の地域区分

① **横浜地区**：横浜市

② **川崎地区**：川崎市

③ **相模原地区**：相模原市

④ **横須賀・三浦地区**：横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町

⑤ **湘南地域**：平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町

⑥ **西湘地区**：小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町

⑦ **県央地区**：厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村

⑧ **足柄上地区**：南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町

※平成18年度調査

(1) 調査対象者

神奈川県に居住する満20歳以上(平成18年4月1日現在)の男女個人3,000人
(層化二段階無作為抽出)

(2) 標本数

有効回収標本数：1,185サンプル

有効回収率：39.5%

(3) 調査期間

平成18年7月～8月

(4) 集計上の地域区分

① **横浜地区**：横浜市

② **川崎地区**：川崎市

③ **横須賀・三浦地区**：横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町

④ **湘南地域**：平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町

- ⑤ **西湘地区**：小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町
- ⑥ **県央地区**：厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村
- ⑦ **足柄上地区**：南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町
- ⑧ **県北地区**：相模原市・城山町・津久井町・相模湖町・藤野町

※平成13年度調査

(1) 調査対象者

神奈川県に居住する満20歳以上(平成13年4月1日現在)の男女個人3,000人
(層化二段階無作為抽出)

(2) 標本数

有効回収標本数：1,209サンプル
有効回収率：40.3%

(3) 調査期間

平成13年8月～9月

(4) 集計上の地域区分

- ① **横浜地区**：横浜市
- ② **川崎地区**：川崎市
- ③ **横須賀・三浦地区**：横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町
- ④ **湘南地域**：平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町
- ⑤ **西湘地区**：小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町
- ⑥ **県央地区**：相模原市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村
- ⑦ **足柄上地区**：南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町
- ⑧ **県北地区**：城山町・津久井町・相模湖町・藤野町

【結果及び考察】

1 成人の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合（神奈川県・全国）

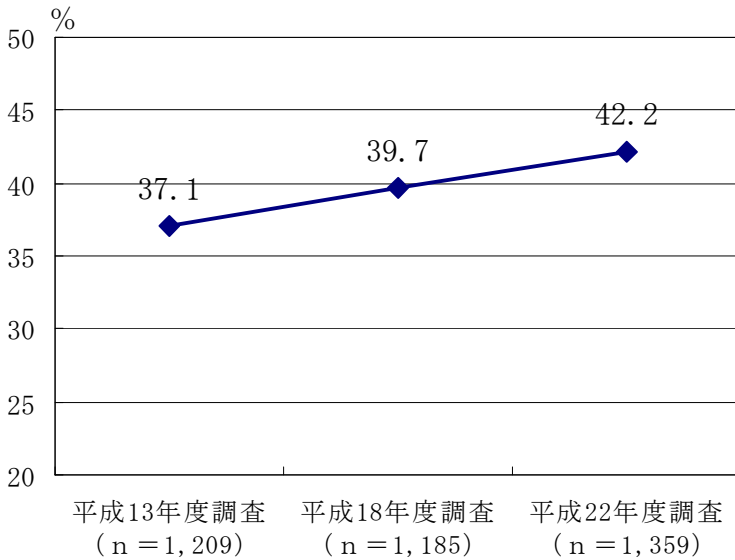


図1 成人の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合（神奈川県）

図1は成人の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合（神奈川県）の推移である。調査初回の平成13年度調査では37.1%であり、平成18年度調査では39.7%と2.6ポイント上昇した。この間の平成16年度には神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」が策定されている。平成22年度今回調査では42.2%となり、平成18年度調査と比較して2.5ポイント上昇した。この間の平成20年3月には「アクティブかながわ・スポーツビジョン第3章スポーツのあるまち・くらしを実現するために」が改訂されている。この改定では平成22年度までに実施または実施予定の取組みが示された。

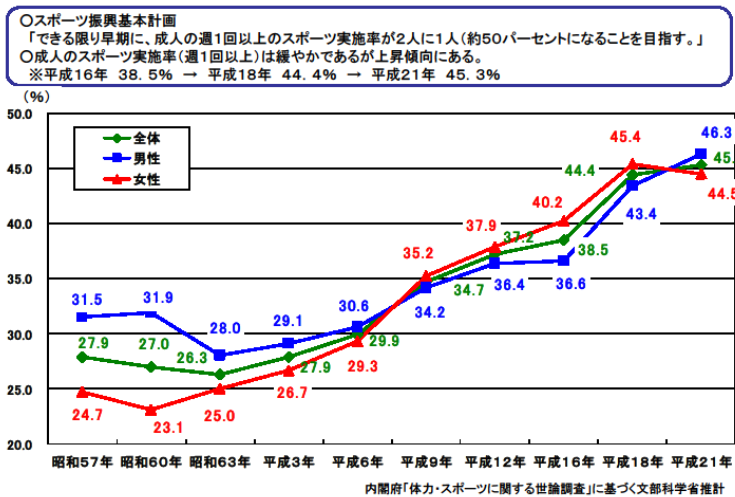


図2 成人の週1回以上スポーツ実施率の推移（全国）

図2は文部科学省の示している成人の週1回以上スポーツ実施率の推移（全国）である。昭和60年の調査では男性のスポーツ実施率が女性のスポーツ実施率を最大の8ポイント以上上回っていた。

平成9年の調査において、それまで低かった女性のスポーツ実施率が男性のスポーツ実施率を上回り平成18年度まで推移したが、直近の平成21年の調査では男性のスポーツ実施率が再び女性のスポーツ実施率を上回っている。このように男女でスポーツ実施率が変容しながら、昭和63年の26.3%から平成21年の45.3%まで上昇し続けている。

2 成人の週1日以上運動・スポーツを行った割合の神奈川県と全国との比較

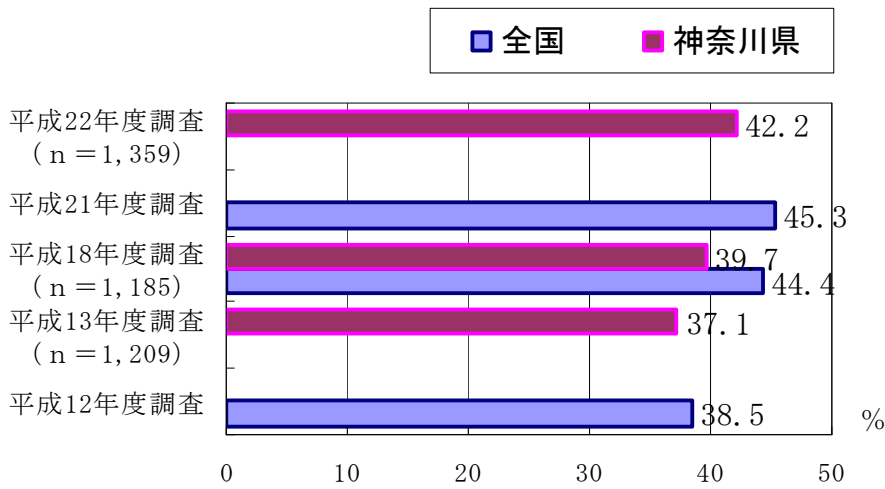


図3 成人の週1日以上運動・スポーツを行った人の割合（神奈川県・全国）

図3は成人の週1日以上運動・スポーツを行った人の割合（神奈川県・全国）の比較である。全国の平成12年度調査と、神奈川県の平成13年度調査との差は1.4ポイントであったが、平成18年度には全国と神奈川県との差は4.7ポイントに拡大し、全国の平成21年度調査と、神奈川県の平成22年度調査ではその差は3.1ポイントまで縮まったが、依然として神奈川県に比べ全国の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合が高いことがわかる。

3 世代別の1年間に行った運動・スポーツの日数

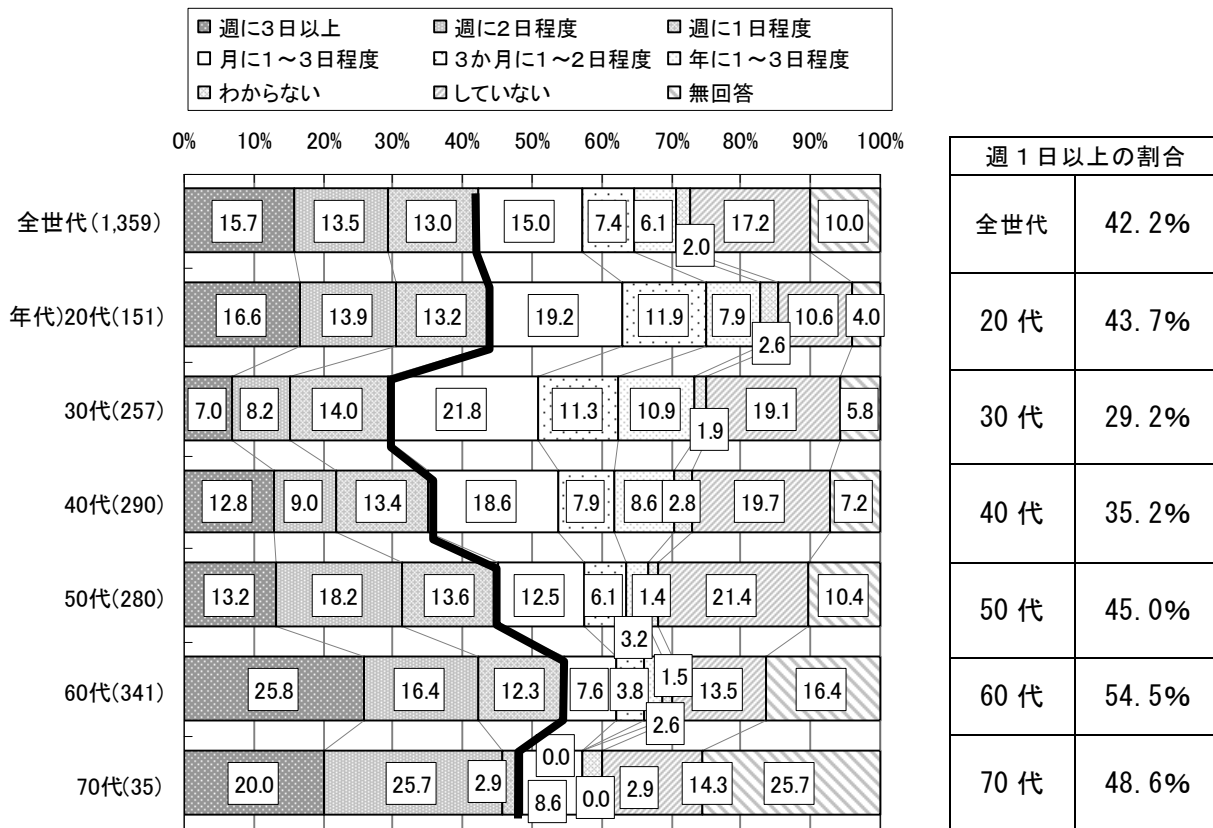


図4-1 1年間に行った運動・スポーツの日数（平成22年度：世代別）

図4-1は1年間に行った運動・スポーツの日数（平成22年度：世代別）である。「週に3日以上」「週に2日程度」「週に1日程度」をあわせた「週1日以上運動やスポーツを行った人の割合」は全世代が42.2%であった。週1日以上運動やスポーツを行った人の割合の最も高い60代では54.5%と、半数以上が週1日以上運動やスポーツを行っている。世代ごとに比較すると30代が最も低く29.2%となっており、40代以降は世代が上がるにつれて週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は上昇している。

* 70代は他年代に比べサンプル数が少ないため、分析の対象外とした。

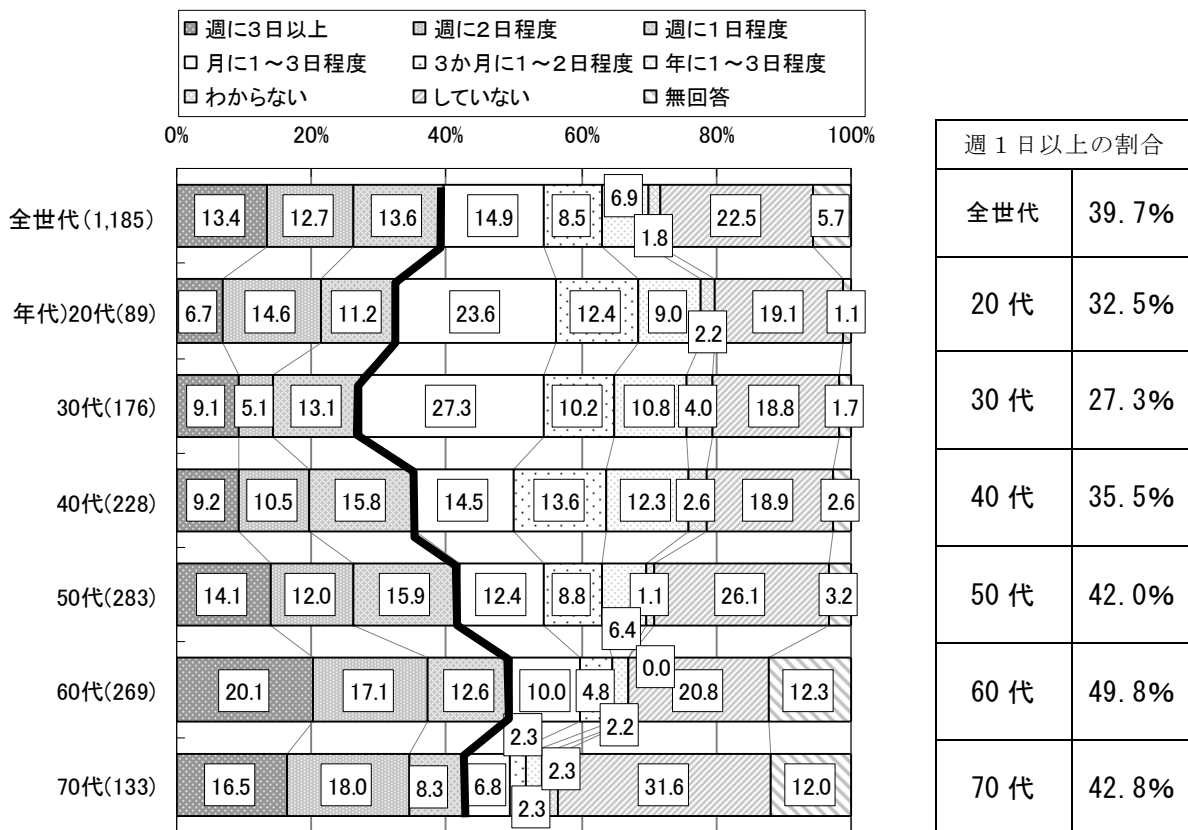


図4-2 1年間に行った運動・スポーツの日数(平成18年度：世代別)

図4-2は1年間に行った運動・スポーツの日数（平成18年度：世代別）である。全世代が39.7%であるのに対して最も低いのは30代で27.3%である。40代から60代までは世代が上がるにつれて週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は上昇している。これは平成22年度調査と同様の傾向である。

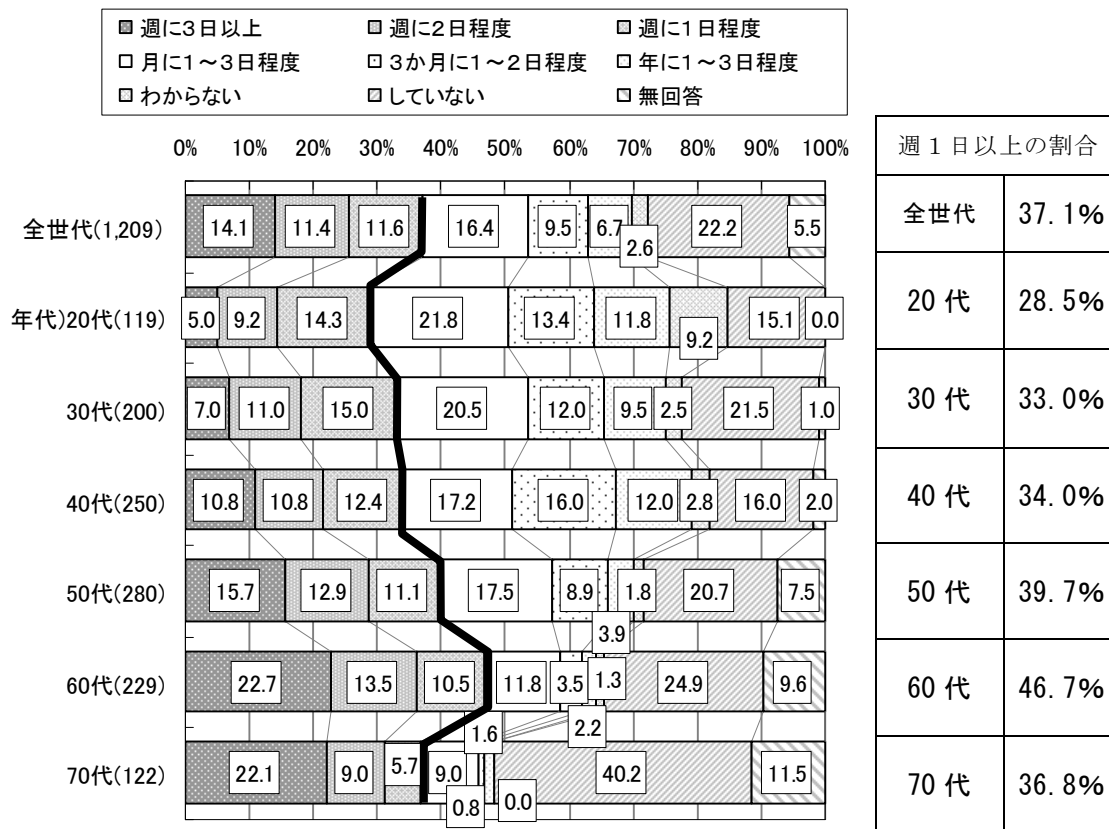


図4-3 1年間に行った運動・スポーツの日数(平成13年度：世代別)

図4-3は1年間に行った運動・スポーツの日数(平成13年度：世代別)である。全世代が37.1%であるのに対して最も低いのは20代の28.5%である。20代から60代まで世代が上がるにつれて週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は上昇している。

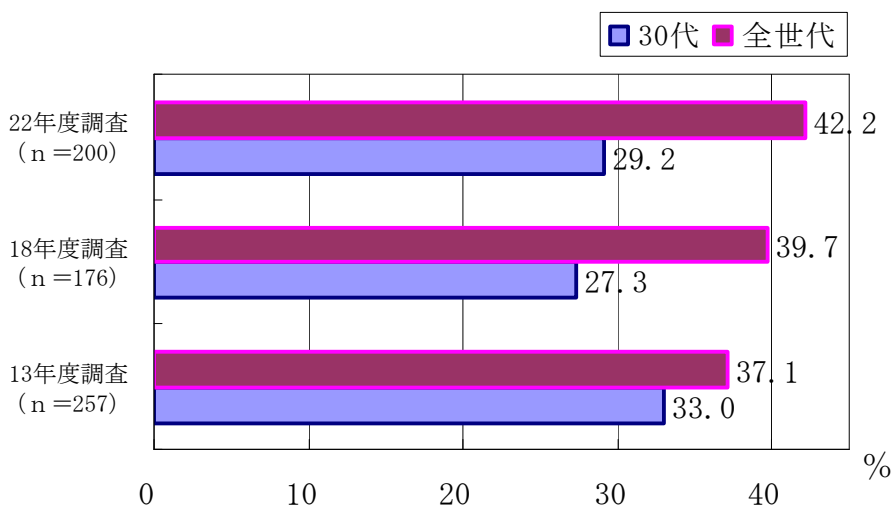


図5 30代と全世代の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合の比較

図5は週1日以上運動やスポーツを行った人の割合(全世代・30代)の比較をした推移である。その差は平成13年度調査では4.1ポイントであったが、平成18年度調査では12.4ポイントに、平成22年度調査ではさらに13.0ポイントに広がり、最も大きな差となっている。平成13年度調査では週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は全世代で一番低かったのは20代であった。ところが平成18年度調査及び平成22年度調査では30代が一番低くなっている。このことから30代に着目し、調査結果に特徴があるか見ていくことにする。

4 30代に見られる他の世代との比較

(1) 普段の健康観

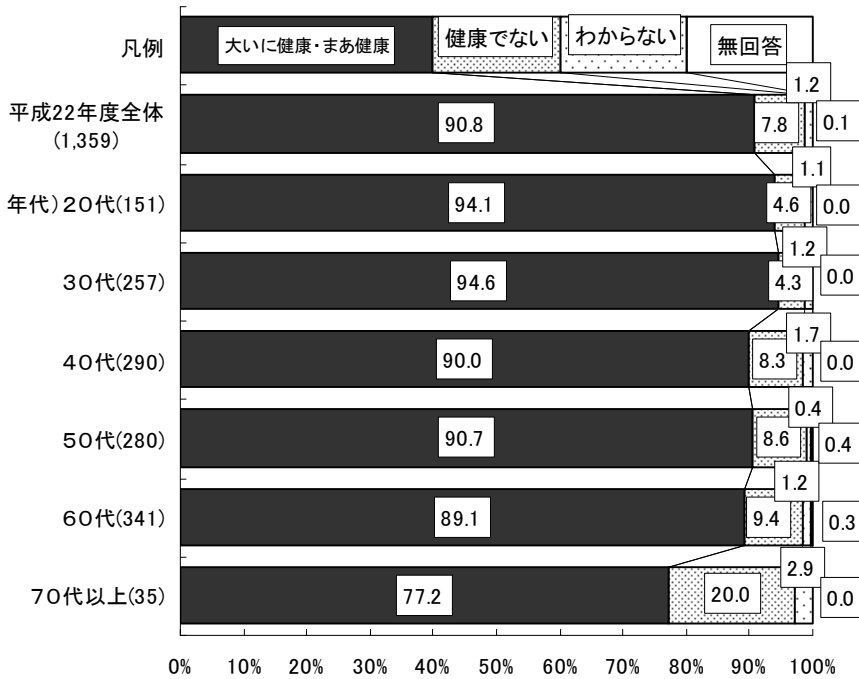


図6-1 普段の健康観（平成22年度：世代別）

図6-1は普段の健康観（平成22年度：世代別）の比較である。『普段のご自身の健康についてどう思いますか。』の問いに「大いに健康」及び「まあ健康」と答えた方を合わせて30代が94.6%と最も多い。

図6-2は普段の健康観（平成18年度：世代別）の比較である。「大いに健康」及び「まあ健康」と答えた方を合わせて20代が96.6%と最も多い。

図6-3は普段の健康観（平成13年度：世代別）の比較である。「大いに健康」及び「まあ健康」と答えた方を合わせて50代が92.1%と最も多い。

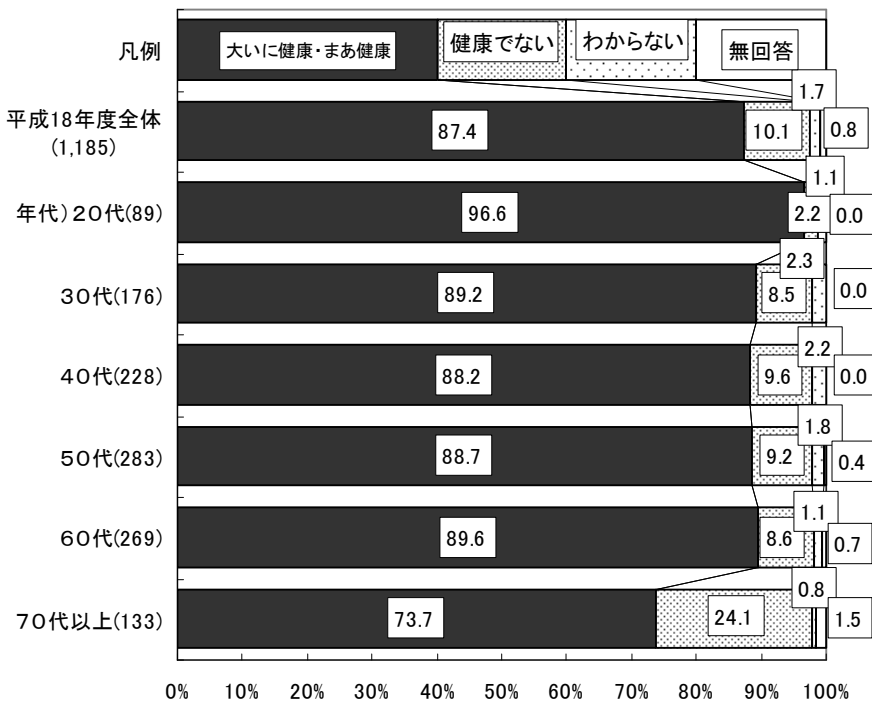


図6-2 普段の健康観（平成18年度：世代別）

これらのことから各世代とも「大いに健康」及び「まあ健康」が多い中でも、全体を見ると平成22年度においては、30代が最も健康と考えている割合が高い。

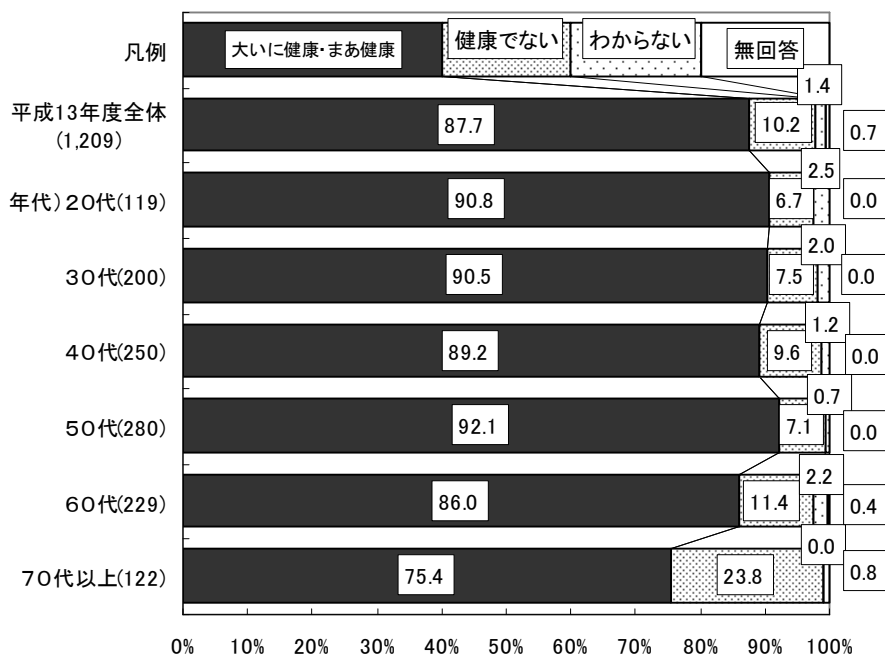


図6-3 普段の健康観（平成13年度：世代別）

(2) 精神的な疲労

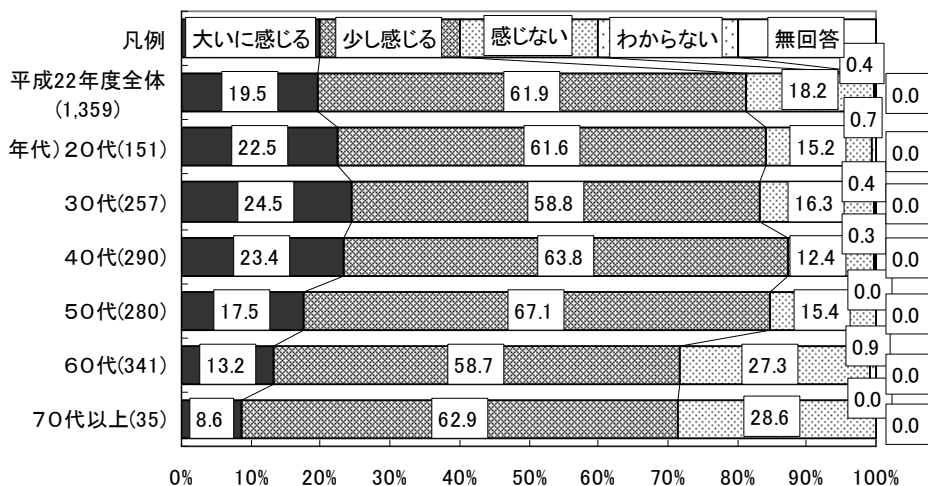


図7-1 精神的な疲労（平成22年度：世代別）

図7-1は精神的な疲労（平成22年度：世代別）の比較である。『普段、精神的な疲労、ストレスを感じていますか』の問いに「大いに感じる」と答えた方は30代が24.5%と最も多い。

図7-2は精神的な疲労（平成18年度：世代別）の比較である。「大いに感じる」と答えた方は30代が33.0%と最も多い。

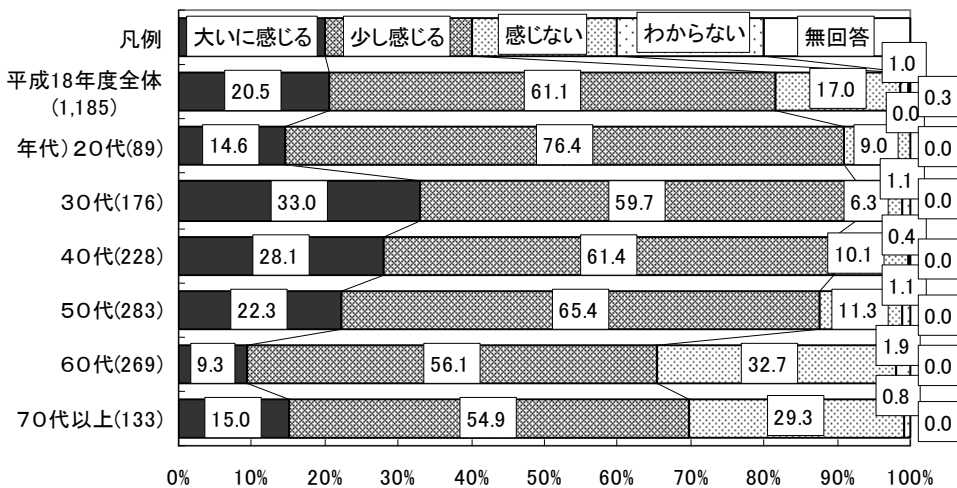


図7-2 精神的な疲労（平成18年度：世代別）

図7-3は精神的な疲労（平成13年度：世代別）の比較である。「大いに感じる」と答えた方は30代が28.5と最も多い。

30代は平成22年度調査、平成18年度調査、平成13年度調査ともに「精神的な疲労」を大いに感じている割合が全世代の中で最も高い。

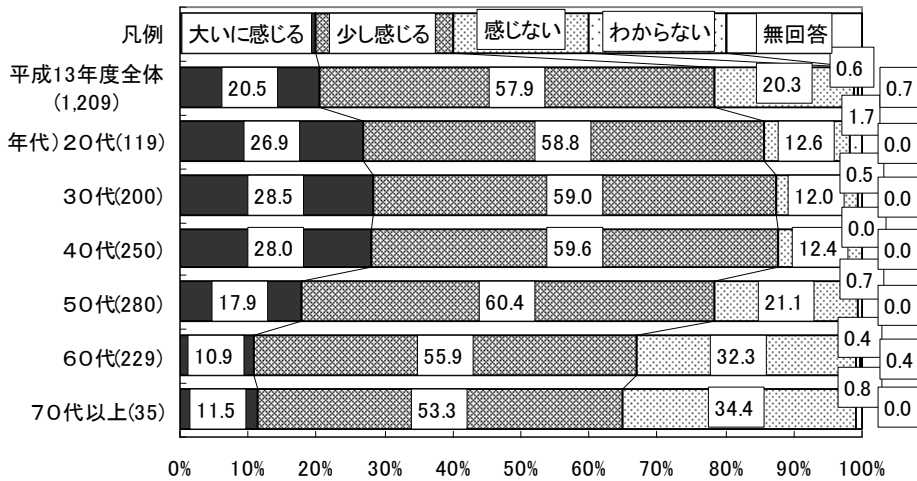


図7-3 精神的な疲労（平成13年度：世代別）

(3) 運動不足

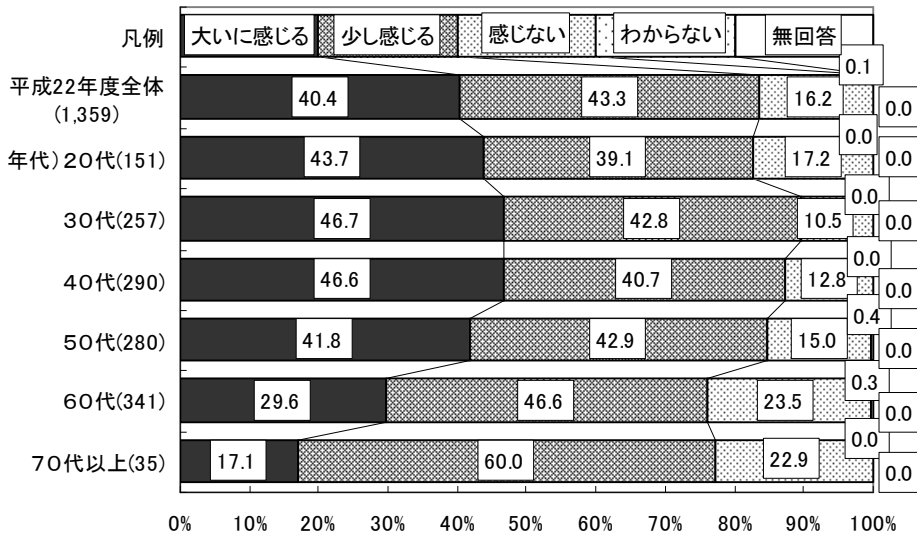


図8-1 運動不足（平成22年度：世代別）

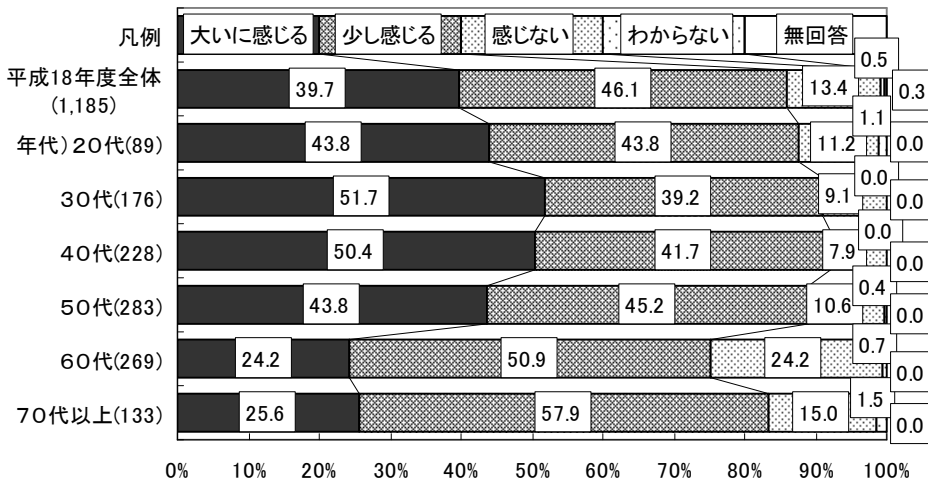


図8-2 運動不足（平成18年度：世代別）

図8-1は運動不足（平成22年度：世代別）の比較である。『普段、運動不足を感じますか』の問いに「大いに感じる」と答えた方は30代が46.7%と最も多い。

図8-2は運動不足（平成18年度：世代別）の比較である。「大いに感じる」と答えた方は30代が51.7%と30代が最も多い。

図8-3は運動不足（平成13年度：世代別）の比較である。「大いに感じる」と答えた方は30代が57.5%と20代の58.0%に次いで多い。

30代は平成22年度調査、平成18年度調査では運動不足を大いに感じている割合が全世代中で最も高く、平成13年度調査でも今回調査の30代が20代の世代であったときに運動不足を大いに感じる方が最も多かった。

20代30代の若い世代が高い割合で運動不足を大いに感じている。

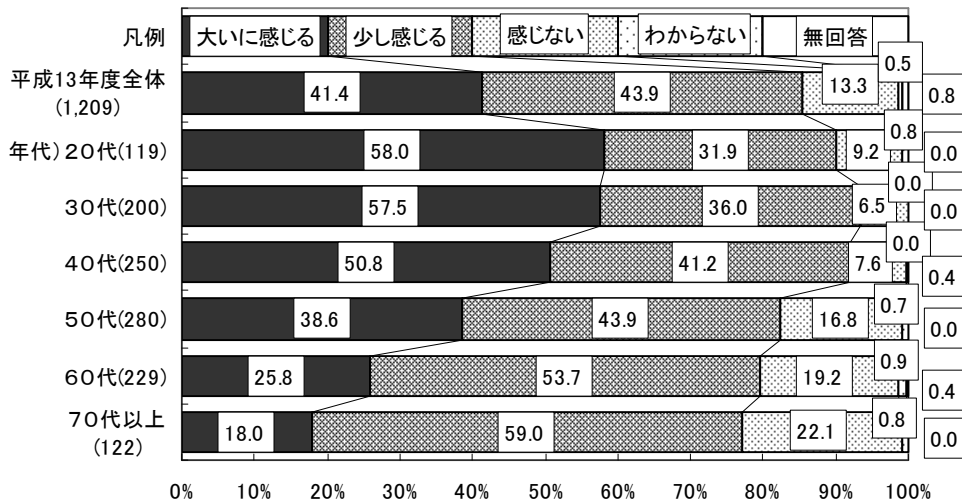


図 8 - 3 運動不足（平成13年度：世代別）

(4) 健康や体力への注意

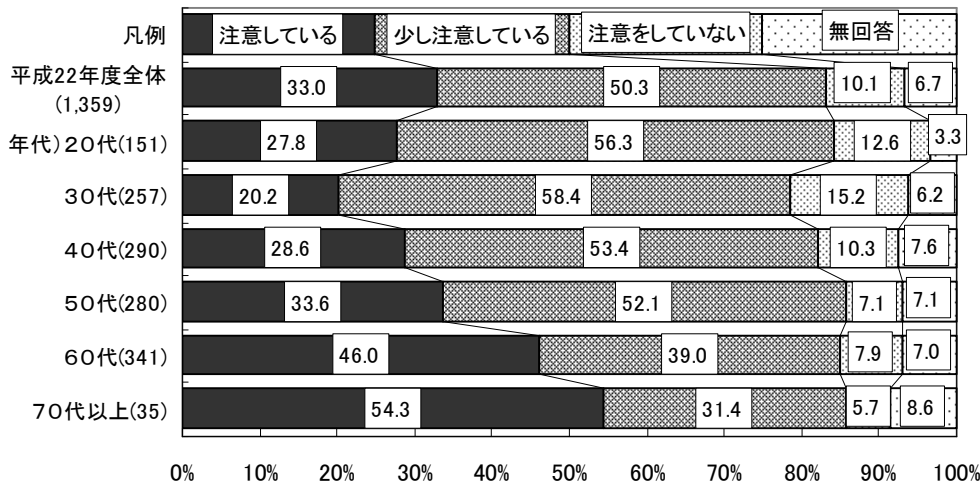


図 9 - 1 健康や体力への注意（平成22年度：世代別）

図 9 - 1 は健康や体力への注意（平成22年度：世代別）の比較である。『普段、健康や体力に注意していますか』の問いに「注意している」と答えた方は30代が20.2%と最も少ない。世代が上がるにつれて「注意している」の割合は上昇している。

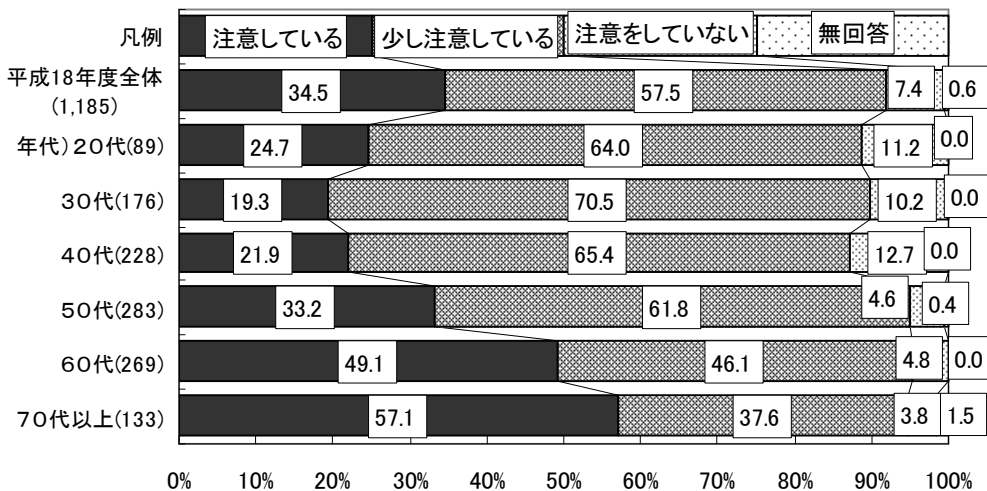


図 9 - 2 健康や体力への注意（平成18年度：世代別）

図 9 - 2 は健康や体力への注意（平成18年度：世代別）の比較である。「注意している」と答えた方は30代が19.3%と最も少ない。平成22年度調査同様、20代を除き世代が上がるにつれて「注意している」の割合は上昇している。

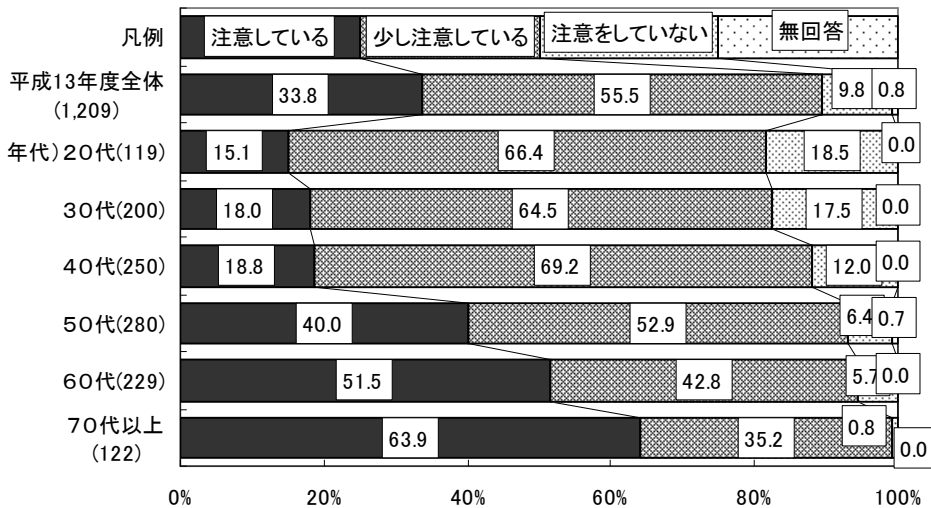


図9-3 健康や体力への注意（平成13年度：世代別）

図9-3は健康や体力への注意（平成13年度：世代別）の比較である。「注意している」と答えた方は30代が18.0%と20代の15.1%に次いで少ない。

健康や体力への注意は平成13年度調査で「注意している」が一番少なかったのは20代であったが、平成18年度調査、平成22年度調査で30代に移行している30代は平成22年度調査、平成18年度調査では、健康や体力への注意をしている割合が全世代中で最も低く、平成13年度調査でも今回平成22年度調査の30代が20代の世代であった9年前に健康や体力への注意をしている割合が最も低かった。

20代30代の若い世代が高い割合で推移している。

(5) 健康・体力維持への留意点

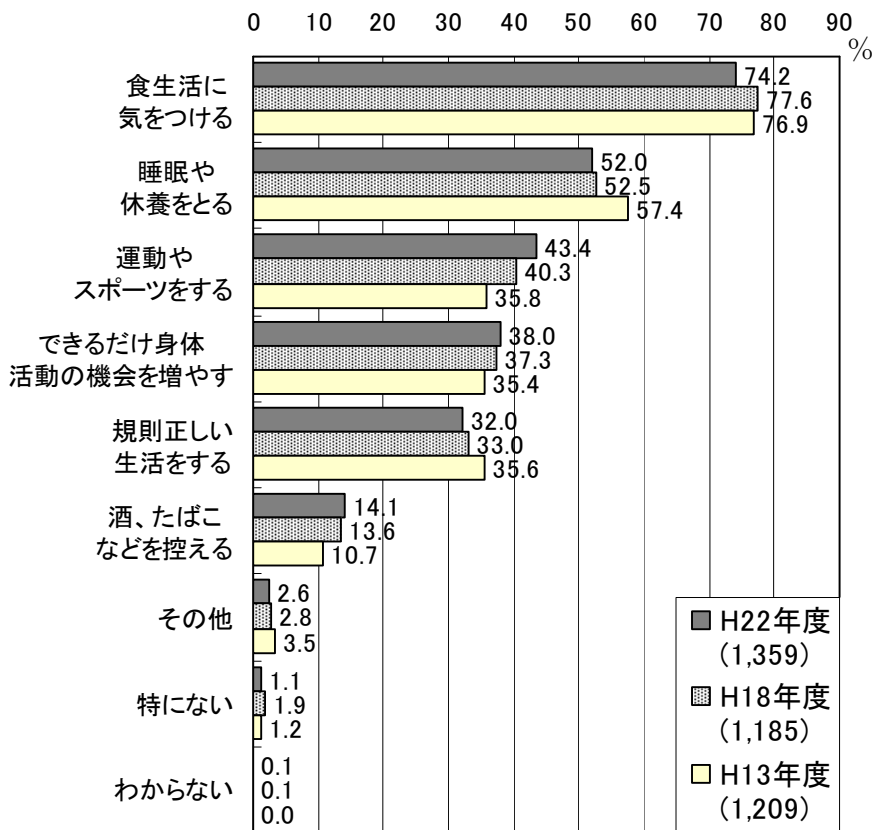


図10-1 健康や体力維持への留意点（全世代時系列比較）

図10-1は健康や体力への留意点（全世代時系列比較）である。『日頃、健康や体力の維持増進のために心がけていることはありますか』との問いに「食生活に気をつける」や「睡眠や休養をとる」が高い割合である。一方で「運動やスポーツをする」や「できるだけ身体活動の機会を増やす」は「食生活に気をつける」や「睡眠や休養をとる」に比べると低いですが、調査を行うたびに上昇している。

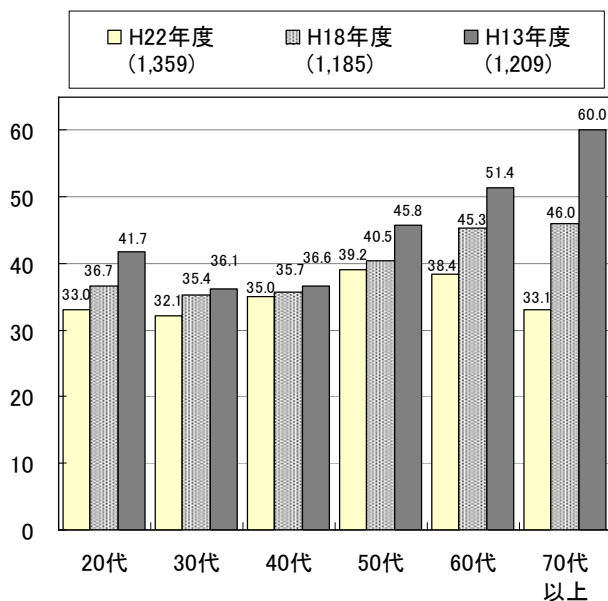


図10-2 運動やスポーツをする
(年代別時系列比較)

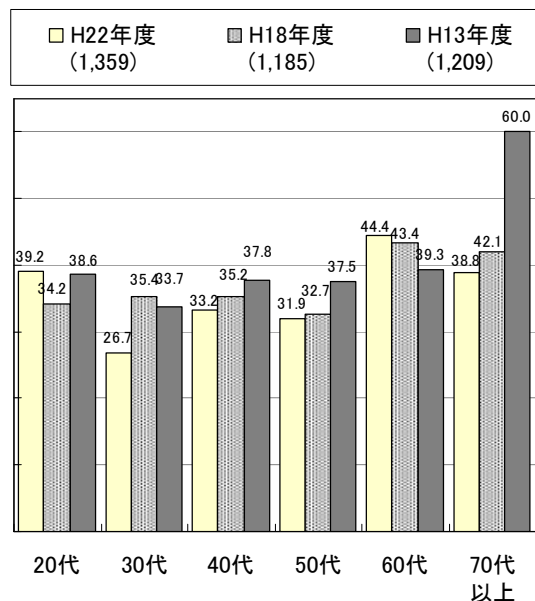


図10-3 できるだけ身体活動の機会を増やす
(年代別時系列比較)

図10-1は健康や体力への留意点(全世代時系列比較)で、3番目の「運動やスポーツをする」や4番目の「できるだけ身体活動の機会を増やす」(図10-2~3)では、30代は平成13年度調査から平成22年度調査までいずれの調査も世代間で低い割合である。

30代は積極的に身体活動やスポーツを行うことが少なく、健康や体力維持について留意する点で、運動や身体活動への意識が低いことが伺える。

(6) 運動・スポーツをしなかった理由

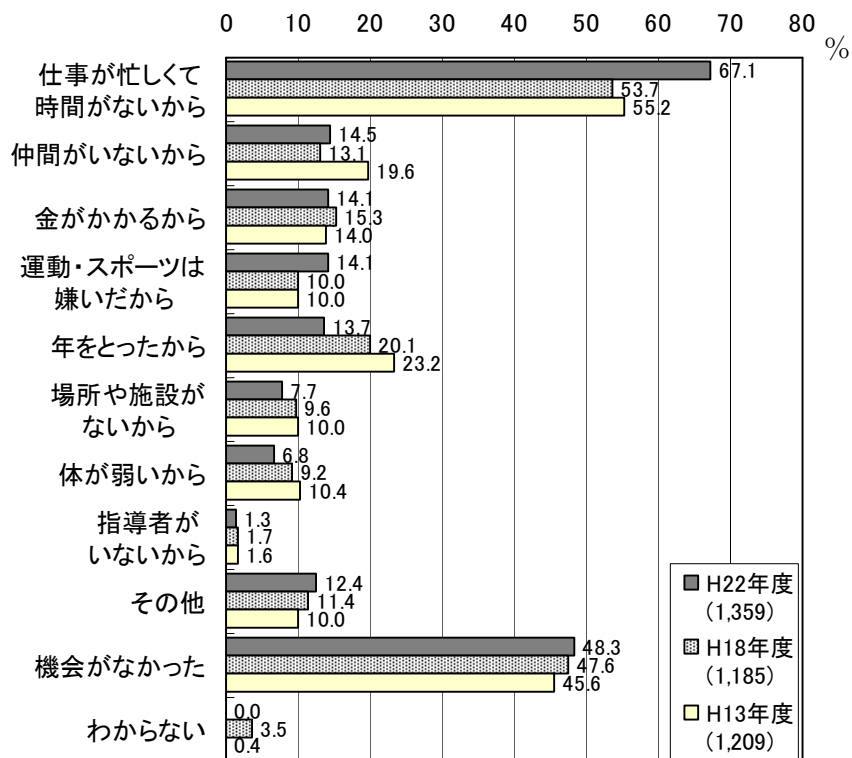


図11-1は運動・スポーツをしなかった理由(全世代時系列比較)である。「仕事が忙しくて時間がないから」はいずれの調査においても最も高い。

図11-1 運動・スポーツをしなかった理由(全世代時系列比較)

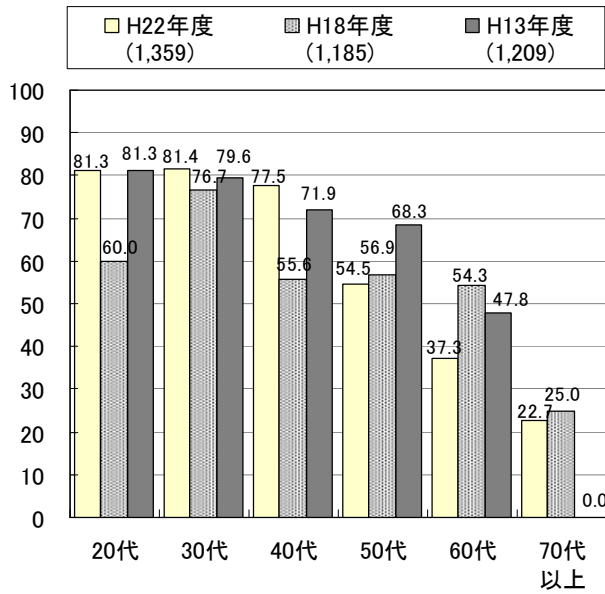


図11-2 仕事が忙しくて時間がないから

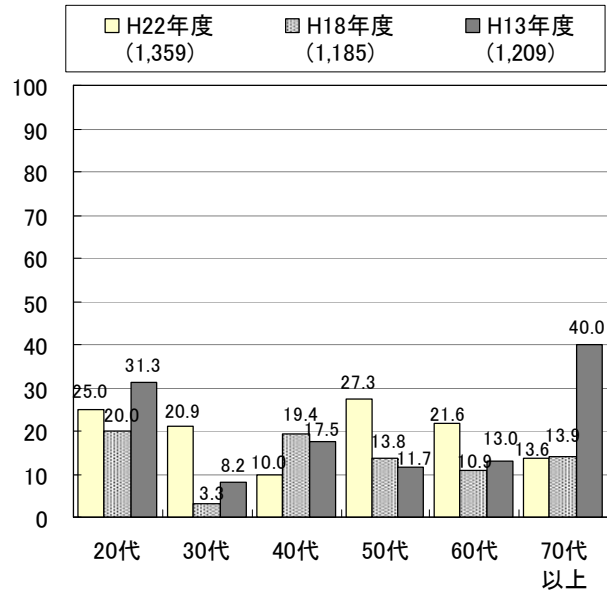


図11-3 仲間がないから

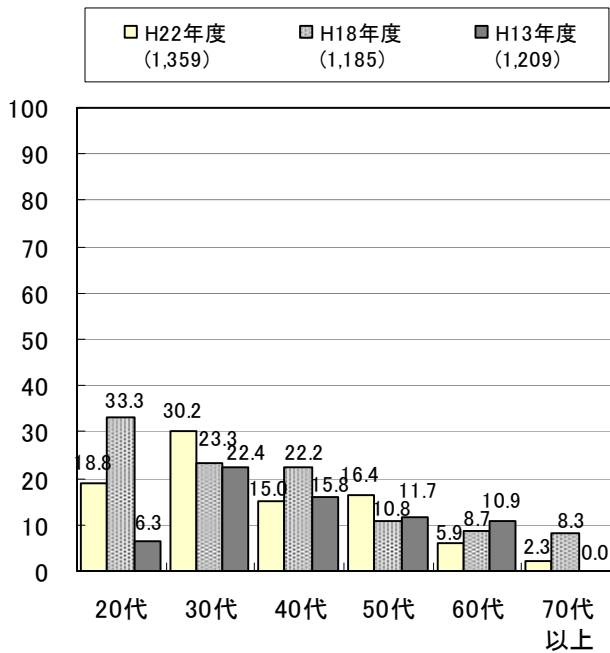


図11-4 金がかかるから

図11-2～4は運動・スポーツをしなかった理由の回答の中で30代の特徴的なものの世代別時系列比較である。

30代は平成13年度調査では「仕事が忙しくて時間がないから」と「金がかかるから」が最も高い。平成18年度調査では「仕事が忙しくて時間がないから」が最も高い。「金がかかるから」は20代%に次いで高い。平成22年度調査では「金がかかるから」が最も高い。

「仲間がないから」は30代について、いずれの調査でも最も低く、友人・仲間は多いようである。30代は他世代に比べ運動・スポーツをしなかった理由として「仕事が忙しく時間がない」と考える割合が最も多く、仲間は多いものの仲間と運動スポーツには向かわず、お金をかけて運動・スポーツを行うという意識が低い。

(7) 運動・スポーツ活動の満足度

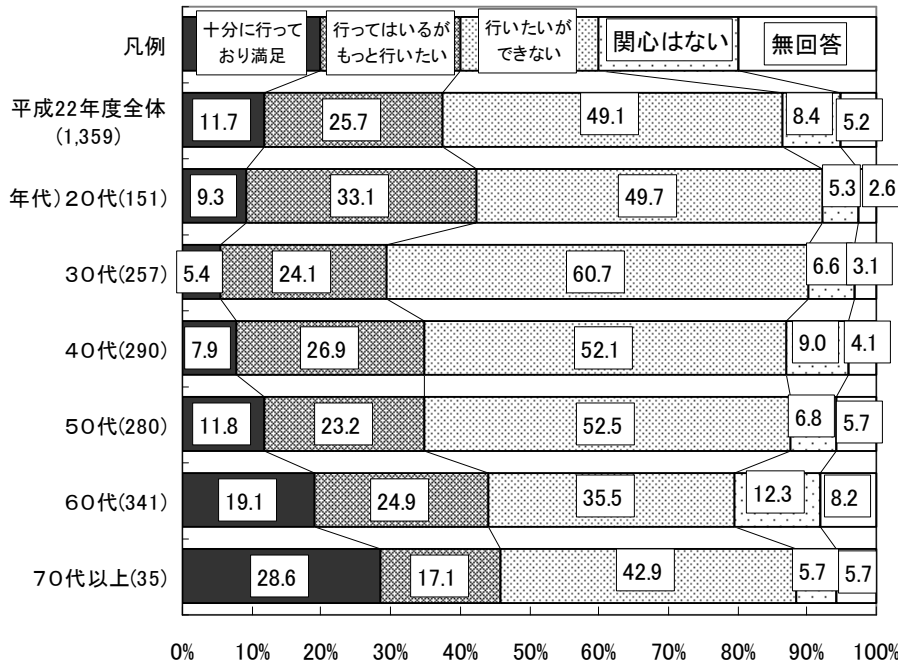


図12-1 運動・スポーツ活動の満足度 (平成22年度：世代別)

図12-1は運動・スポーツ活動の満足度（平成22年度調査：世代別）の比較である。「運動・スポーツ活動を行いたいができない」と答えた方は30代が60.7%と最も多い。20代を除きほぼ年代が上がるにつれて「十分に行っており満足」の割合は上昇し、「行いたいができない」の割合は減少している。

図12-2は運動・スポーツ活動の満足度（平成18年度調査：世代別）の比較である。「運動・スポーツ活動を行いたいができない」と答えた方は30代が61.4%と20代の62.9%に次いで多い。平成22年度調査と同様、「十分に行っており満足」の割合は、世代が上がるにつれて上昇し、「行いたいができない」の割合は減少している。

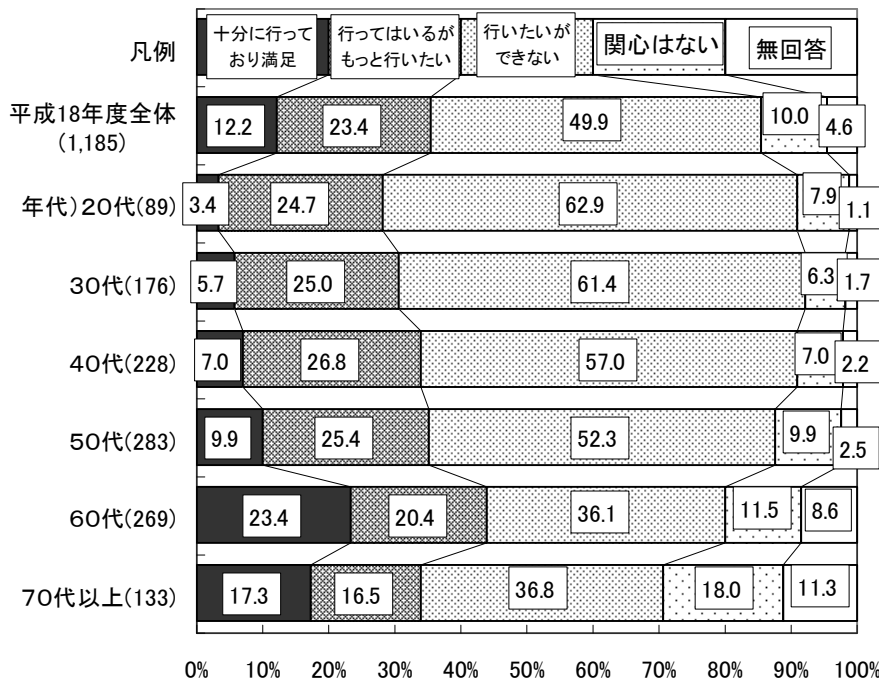


図12-2 運動・スポーツ活動の満足度 (平成18年度：世代別)

図12-3は運動・スポーツ活動の満足度（平成13年度調査：世代別）の比較である。「運動・スポーツ活動を行いたいができない」と答えた方は30代が66.0%と最も多い。世代が上がるにつれ「十分に行っており満足」の割合は上昇し、「行いたいができない」の割合は20代を除き年代が上がるにつれて減少している。

平成22年度調査と同様、「十分に行っており満足」の割合は世代が上がるにつれて上昇している。

30代は運動・スポーツを「行いたいができない」と回答し、実践できないことから「十分に行っており満足」と考える割合も低い。

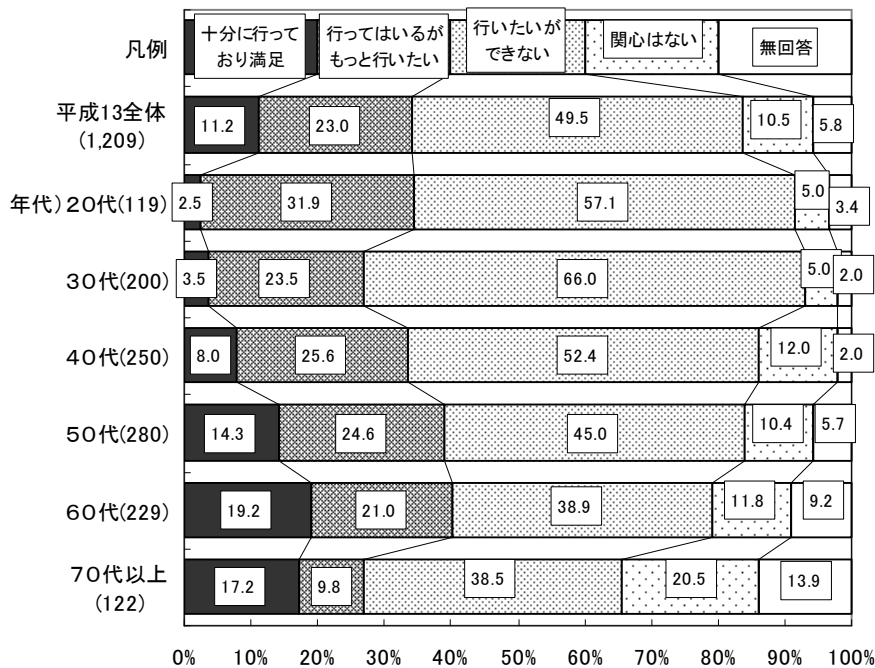


図12-3 運動・スポーツ活動の満足度
(平成13年度：世代別)

(8) 公共スポーツ施設への要望

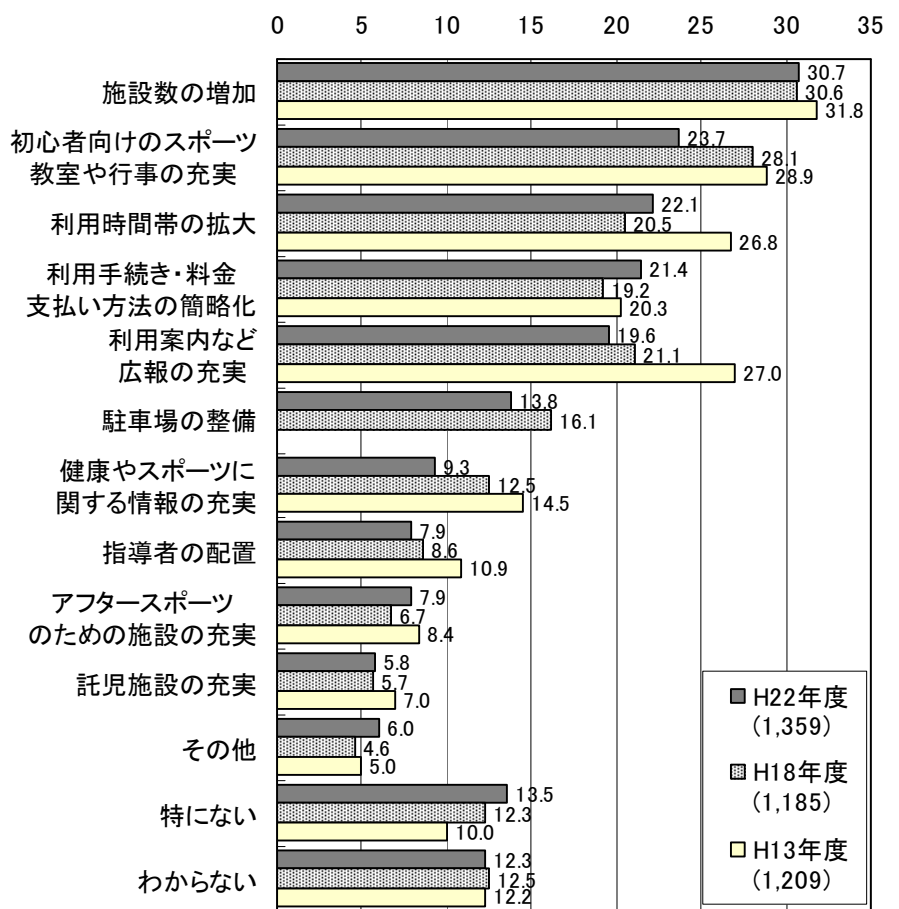


図13-1 公共スポーツ施設への要望
(時系列比較)

図13-1は公共スポーツ施設への要望（時系列比較）である。「施設数の増加」が各回調査ともに回答が最も多い。平成22年度調査では30.7%、平成18年度調査では30.6%、平成13年度調査では31.8%である。

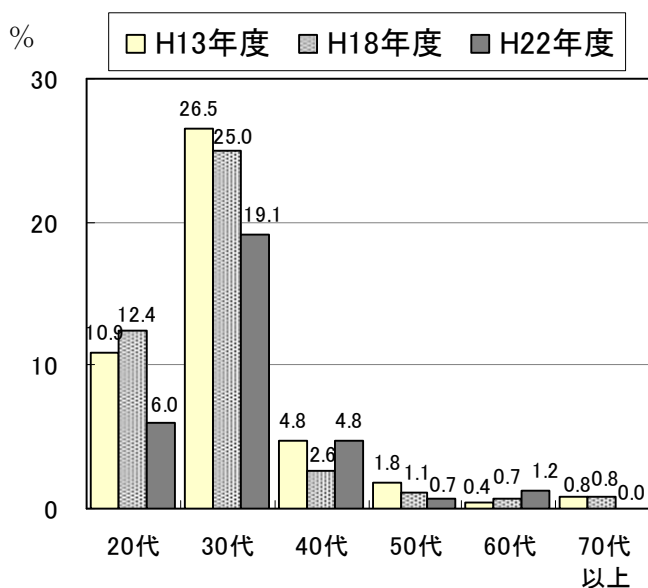


図13-2 託児施設の充実
(年代別時系列比較)

図13-2は、託児施設の充実(年代別時系列比較)である。図13-1の公共スポーツ施設への要望(時系列比較)の中では10番目の回答割合である。全世代では5%強の回答であるが、30代の回答は常に高い割合であり、子育て世代と考えられる30代の要望が顕著にあらわれている。

30代にとっては公共スポーツ施設の託児施設の充実は運動・スポーツを実施する上で重要な役割を担うものと期待していることが伺える。

(9) 今後設置を希望する公共スポーツ施設

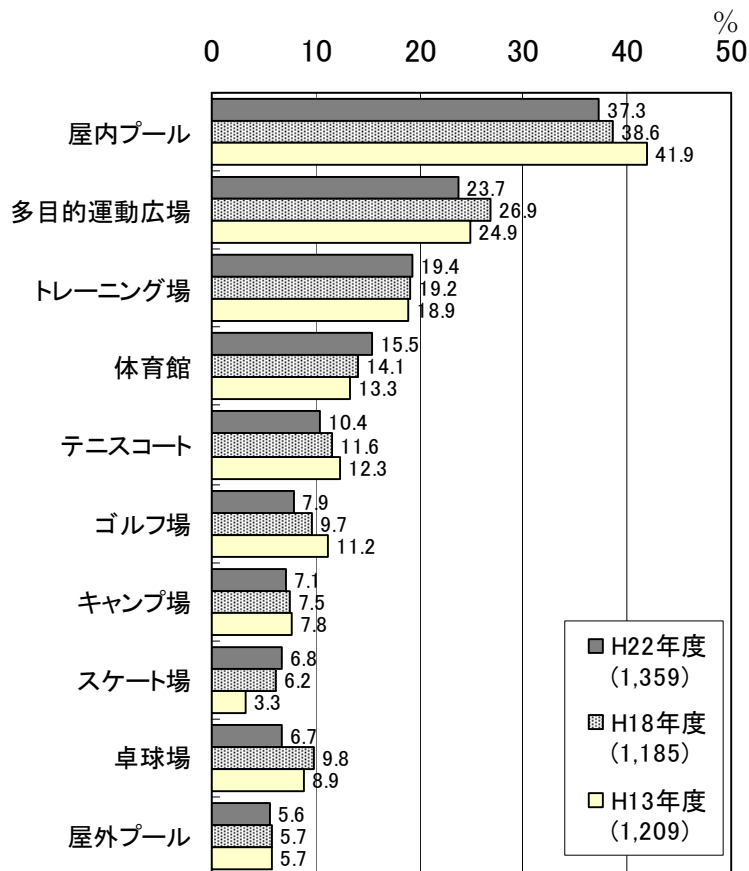


図14-1 今後設置を希望する公共スポーツ施設
(平成22年度：全世代時系列比較)

図14-1は今後設置を希望する公共スポーツ施設(平成22年度：全世代時系列比較)である。平成22年度調査では「屋内プール」の希望が多く、割合が減少しているものの平成18年度調査、平成13年度調査も高い割合で希望している。

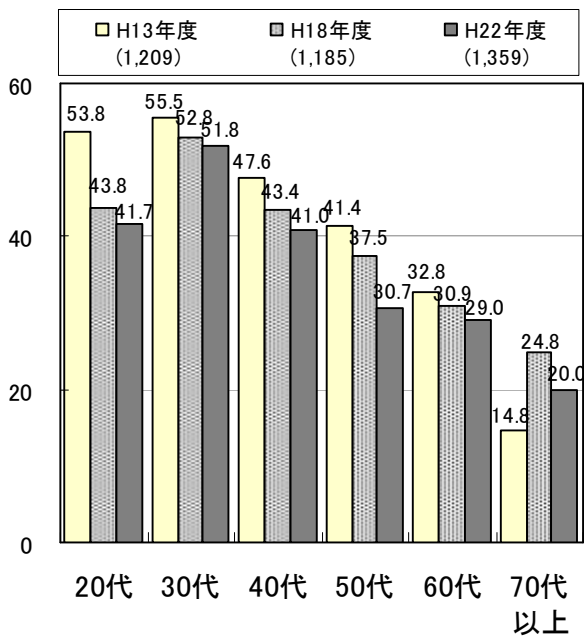


図14-2 屋内プール

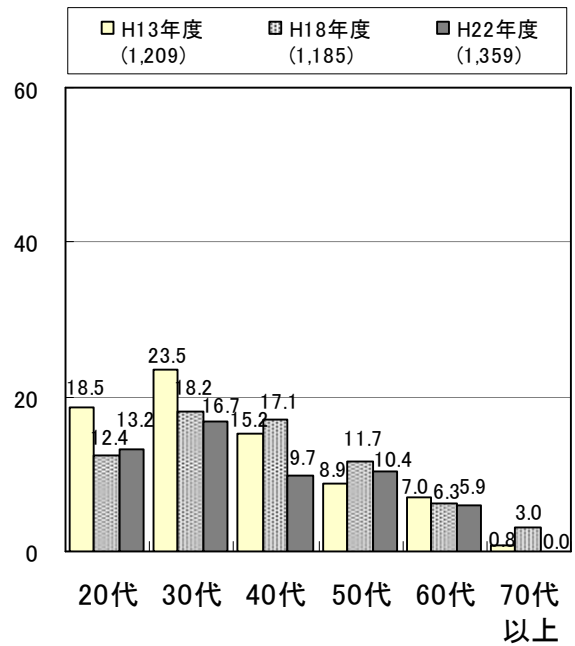


図14-3 テニスコート

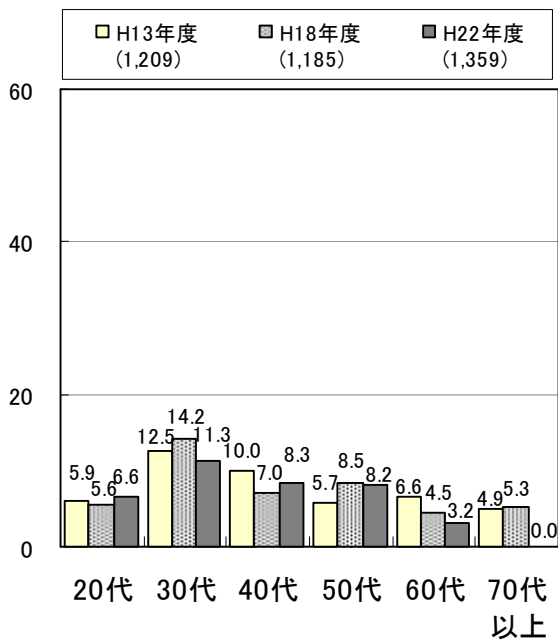


図14-4 キャンプ場

図14-2～4は今後設置を希望する公共スポーツ施設の「屋内プール」「テニスコート」「キャンプ場」の世代別時系列比較である。

30代はこの3つの施設を3回の調査ともどの世代よりも多く希望している。

30代の傾向として比較的手軽に利用できる、子どもと共に活動できる「屋内プール」「テニスコート」「キャンプ場」を希望していることが伺える。

(10) 運動・スポーツクラブ等への加入状況

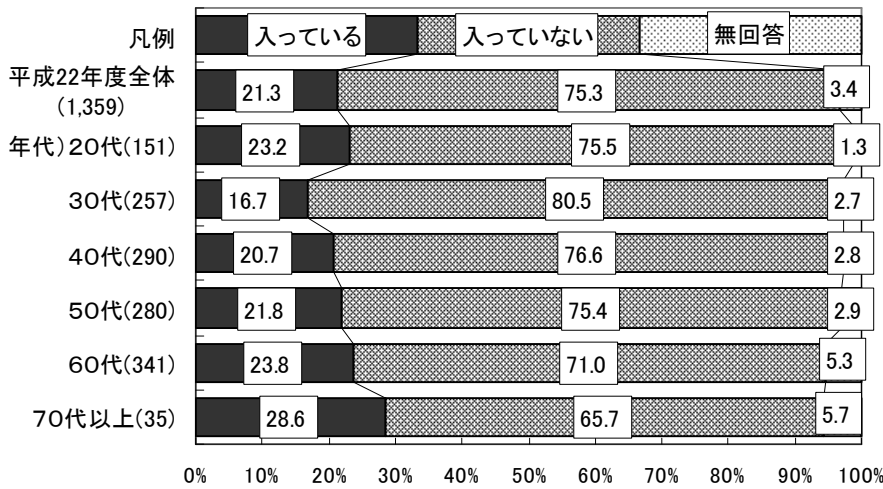


図15-1 運動・スポーツクラブ等への加入状況 (平成22年度：世代別)

図15-1は運動・スポーツクラブ等への加入状況（平成22年度：世代別）である。「入っていない」と答えた方は30代が80.5%と最も多い。20代を除き年代が上がるにつれて「入っていない」の割合は減少している。

図15-2は運動・スポーツクラブ等への加入状況（平成18年度：世代別）である。「入っていない」と答えた方は20代が83.1%と最も多く、次いで30代の79.0%となっている。

図15-3は運動・スポーツクラブ等への加入状況（平成13年度：世代別）である。「入っていない」と答えた方は20代が84.9%と最も多く、次いで30代の81.5%となっている。

平成22年度調査の30代は運動・スポーツクラブ等へ「入っていない」と答えた割合が最も高い。

平成13年度調査、平成18年度調査での「入っていない」と答えた割合は20代が全世代の中で最も高く、この世代が9年間で年代が移行し平成22年度調査で30代となり、平成22年度調査の運動・スポーツクラブ等へ「入っていない」状況となったことが伺える。

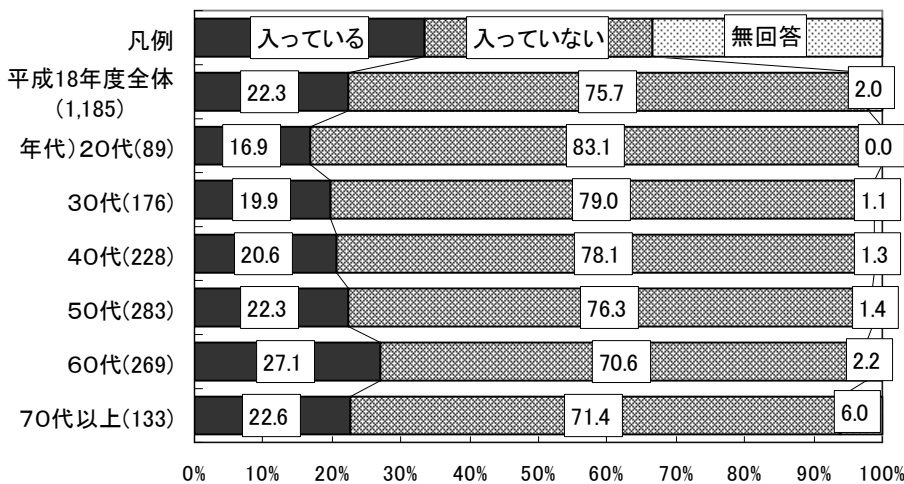


図15-2 運動・スポーツクラブ等への加入状況 (平成18年度：世代別)

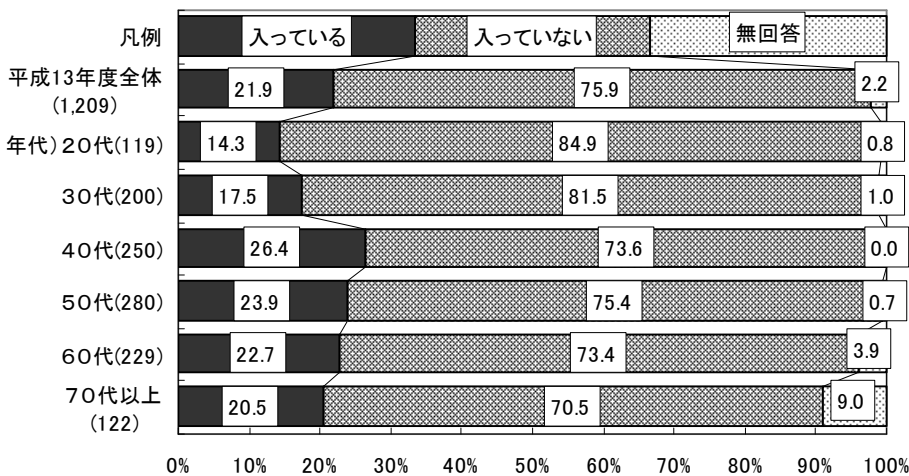


図15-3 運動・スポーツクラブ等への加入状況 (平成13年度：世代別)

平成22年度調査で取り上げたいいくつかの内容からまとめると、30代には次の傾向が考えられる。

まず、世代別では若いこともあり健康と感じているが、精神的には疲労を抱えており、運動不足傾向の意識は高い。健康や体力についてはあまり注意を向けないので、健康のための運動・スポーツをする機会も少ない。

次に、仕事や家庭での生活が忙しく、運動・スポーツ活動を実施する時間の確保ができないこともあり、仲間が多いがあえて積極的にお金のかかる運動・スポーツは行っていない。そのため、運動・スポーツクラブへの加入率は低く、運動やスポーツを十分に行って満足だという人は少ない。

そして、公共スポーツ施設には託児施設の充実を望み、安心して運動やスポーツ活動へ取り組める環境や、子どもと気軽に行えるスポーツができる施設を望んでいる。

いつの時代でも30代のこれらの状況は常に世代が抱えた課題と考えられ、成人の中でも若い世代ではあるが、職場や家庭で中心的な役割を担うことの多い30代の現状を捉えることができ、運動・スポーツ活動を実施しにくい状況である。これらのことはかねてから社会の課題になっていることや、昨今の様々な社会情勢の変化も関連していると思われる。

さらに平成22年度調査は、平成13年度の調査結果と比べもう1点注目すべきことが挙げられる。平成22年度調査での30代の回答者が、10年前は20代であったことになるが、9年前の13年度の調査の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は全世代で37.1%のところ、20代が28.5%と全世代の中で最も低い割合となっていた。9年前に実施率の低かった20代の人たちが9年経って平成22年度調査においてその傾向を引き継いだことも考えられる。今後、県全体の実施率を向上させるためには、30代のライフスタイルとしての課題の検証と、現在の30代の方に向けた、より運動やスポーツが実施できる仕組みを提供していくことも必要であると考えられる。

5 地区別の1年間に行った運動・スポーツの日数

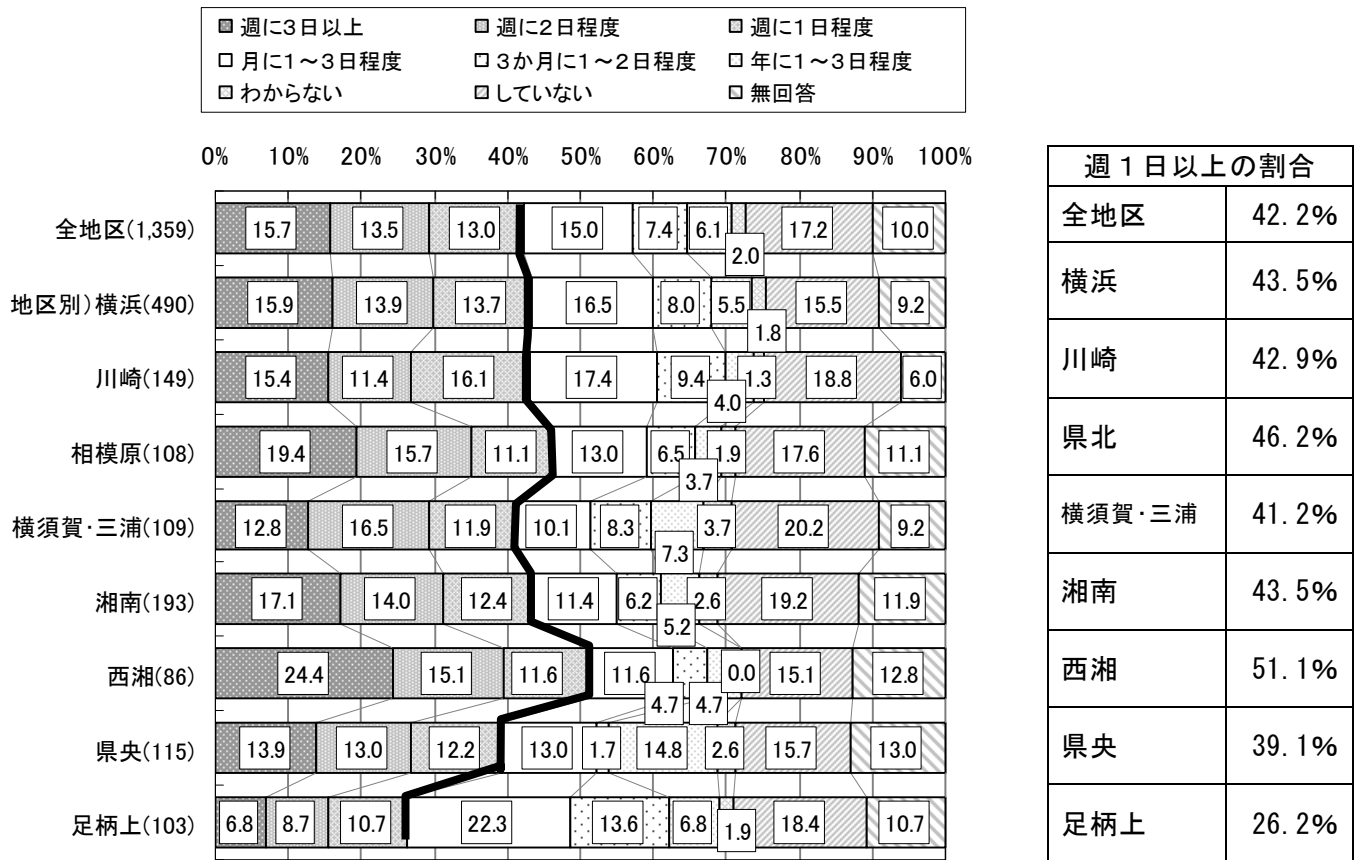


図16-1 1年間に行った運動・スポーツの日数 (平成22年度：地区別)

図16-1は1年間に行った運動・スポーツの日数(平成22年度：地区別)である。県内を8つの地区に分けて比較したものである。この地区割は回答者を抽出する際に、地域による偏りをなくし、県内各地区からもれなく回答を得るために区分をしたものである。

全地区の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は42.2%であった。地区別に見ると週1日以上運動やスポーツを行った人の割合が最も高い地区は西湘地区であり51.1%であった。

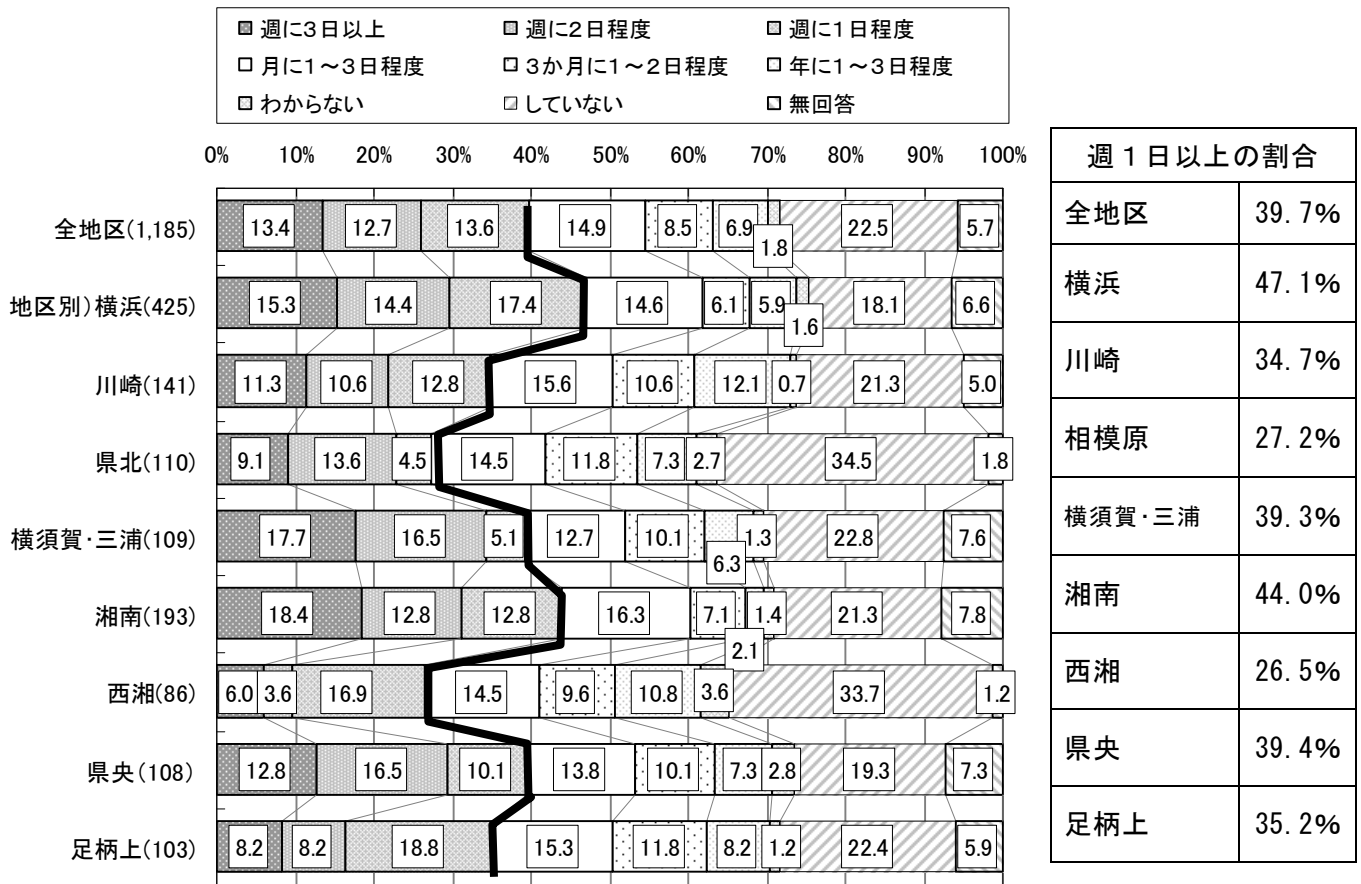


図16-2 1年間に行った運動・スポーツの日数 (平成18年度：地区別)

図16-2は1年間に行った運動・スポーツの日数(平成18年度：地区別)である。県内を8つの地区に分けて比較したものである。全地区の週1日以上運動やスポーツを行った人の割合は39.7%であるが、平成18年度調査で最も週1日以上運動やスポーツを行った人の割合が低かったのは西湘地区の26.5%である。

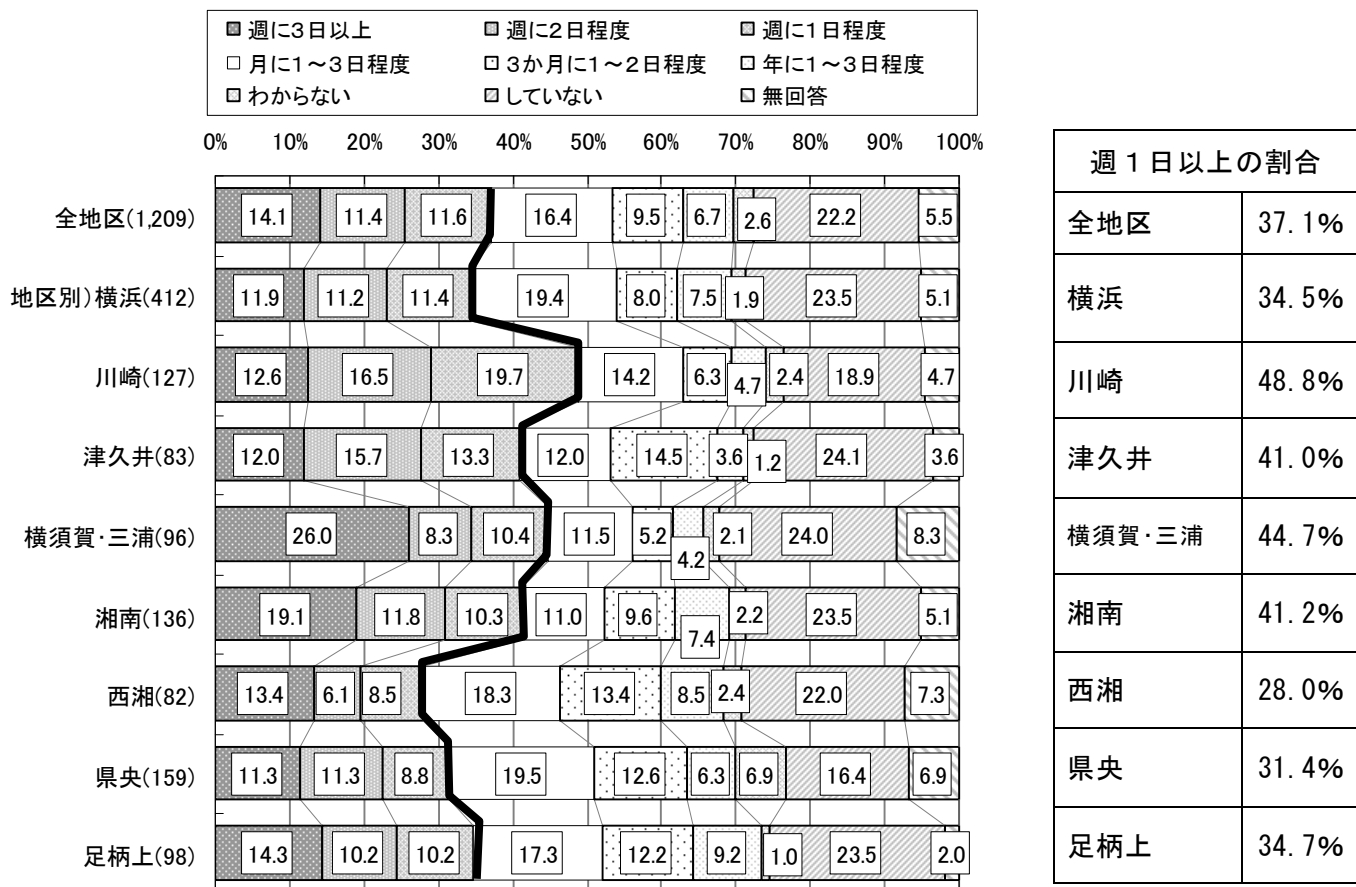


図16-3 1年間に行った運動・スポーツの日数 (平成13年度：地区別)

図16-3は1年間に行った運動・スポーツの日数(平成13年度：地区別)である。県内を8つの地区に分けて比較したものである。平成13年度調査で最も週1日以上運動やスポーツを行った人の割合が低かったのは西湘地区の28.0%である。

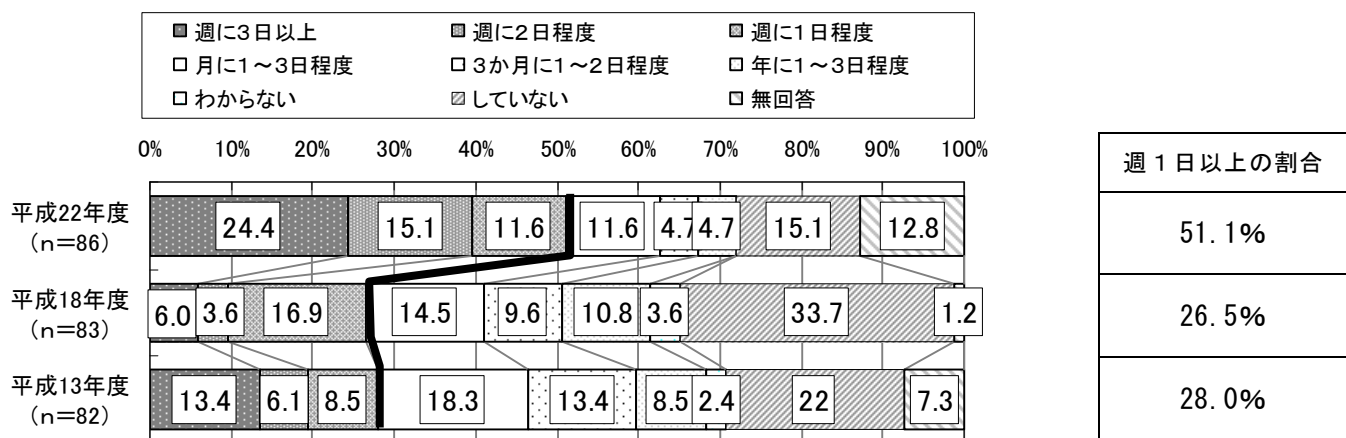


図17 運動・スポーツを行った日数(西湘地区：時系列比較)

図17は西湘地区における運動・スポーツを行った日数（時系列比較）である。

平成22年度調査で西湘地区では過去2回の調査に比べ、倍近い割合の人が運動・スポーツをするようになったことになる。調査年度ごとの推移を図17に示した。これを見ると「週に3日以上」と「週に2日程度」の割合が大きく増えている。また「していない」の割合が平成18年度調査の33.7%から、平成22年度調査の15.1%と大きく半数以下に減っていることがわかる。今まで運動をしなかった人が運動をするようになったと考えられる。

6 西湘地区に見られる他の地区との比較

(1) 健康や体力への注意

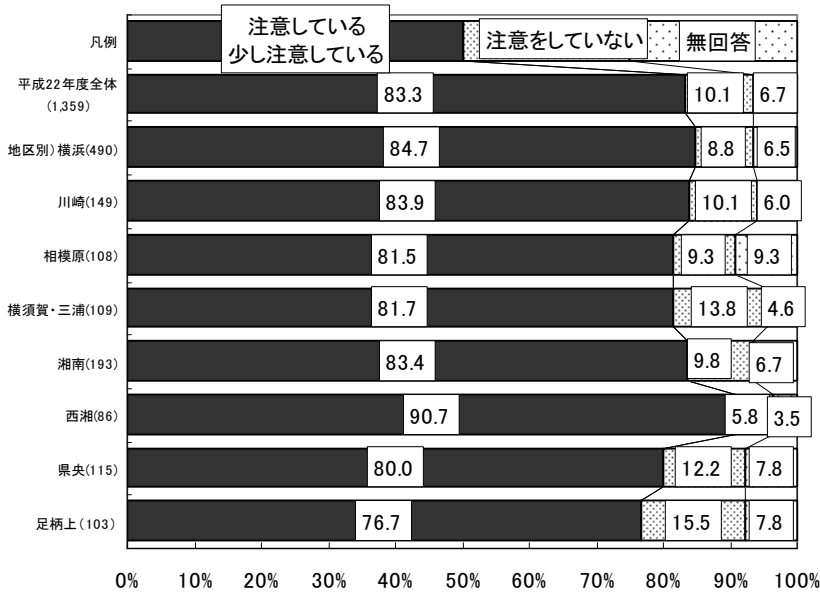


図18-1は健康や体力への注意（平成22年度：地区別）の比較である。『普段、健康や体力に注意していますか』の問いに「注意している」「少し注意している」と答えた方の回答を併せるとどの地区も高い割合だが、西湘地区が90.7%と最も高い。

図18-1 健康や体力への注意（平成22年度：地区別）

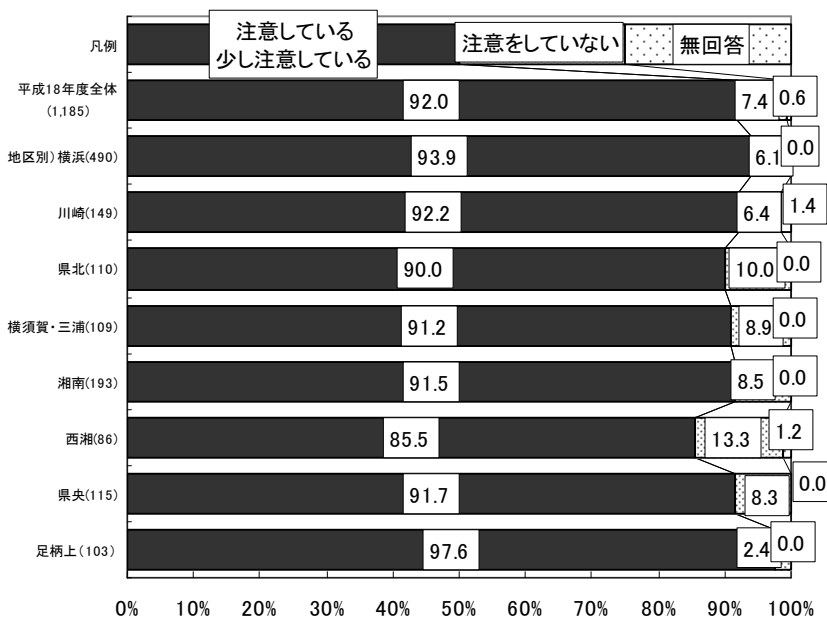


図18-2は健康や体力への注意（平成18年度：地区別）の比較である。「注意している」「少し注意している」と答えた方の回答を併せると、西湘地区が85.5%と最も低い。

図18-2 健康や体力への注意（平成18年度：地区別）

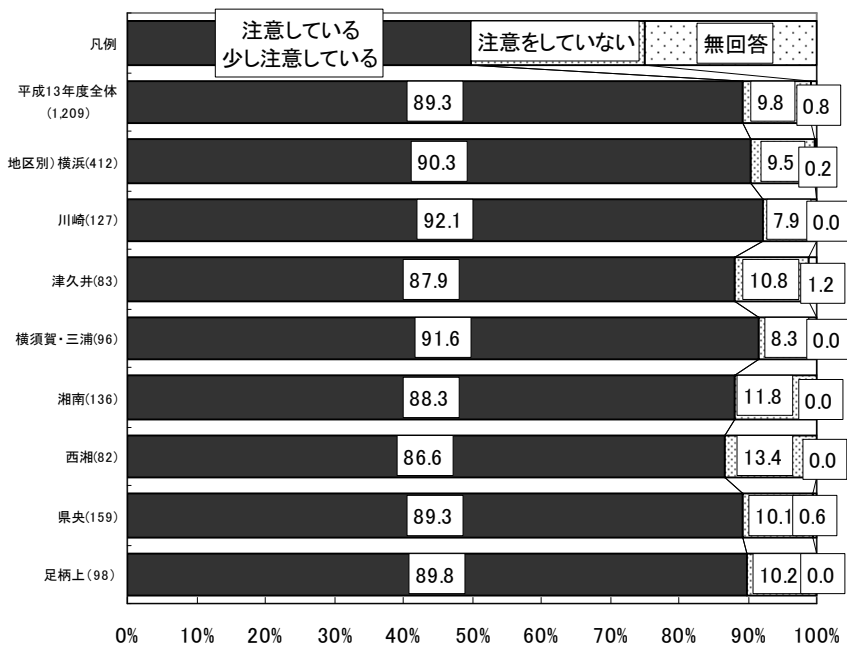


図18-3 健康や体力への注意（平成13年度：地区別）

図18-3は健康や体力への注意（平成13年度：地区別）の比較である。「注意している」「少し注意している」を合すると西湘地区が86.6%と最も低い。

西湘地区は平成13年度調査、平成18年度調査において「健康や体力への注意」は最も低かったが、平成22年度調査において最も高くなった。西湘地区は健康や体力に注意を向ける意識が高まったことが伺える。

(2) 運動・スポーツをした理由

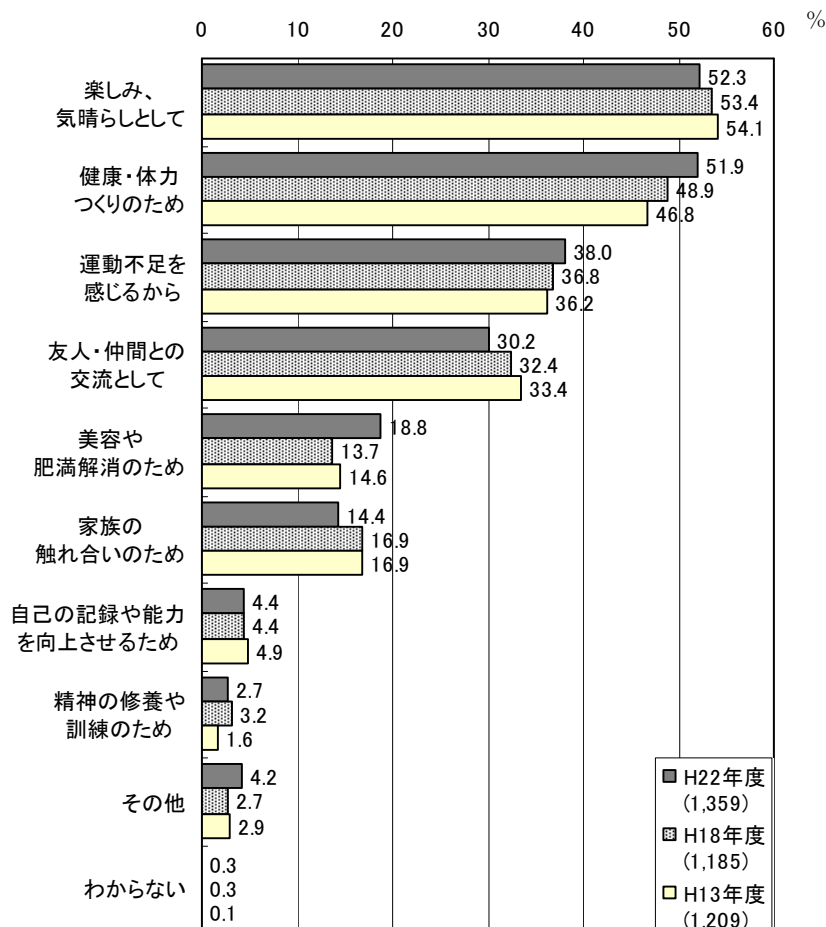


図19-1 運動・スポーツをした理由（平成22年度：時系列比較）

図19-1は運動・スポーツをした理由（平成22年度：時系列比較）である。「楽しみ、気晴らしとして」は3回の各調査とも最も高かったが、平成13年度調査と平成18年度調査で0.7ポイント、平成18年度調査と平成22年度調査で1.1ポイントと少しずつではあるが減少傾向である。

平成22年度調査においては「健康・体力づくりのため」は増加傾向であり平成13年度調査と平成18年度調査で2.1ポイント、平成18年度調査と平成22年度調査で3.0ポイント増加し「楽しみ、気晴らしとして」に迫っている。運動不足を感じるから」も増加傾向であり、健康志向の高まりが伺える。

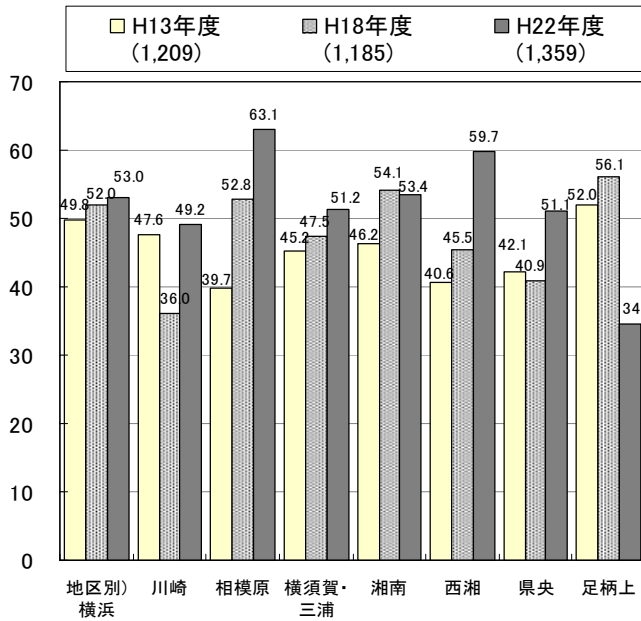


図19-2 健康・体力づくりのため

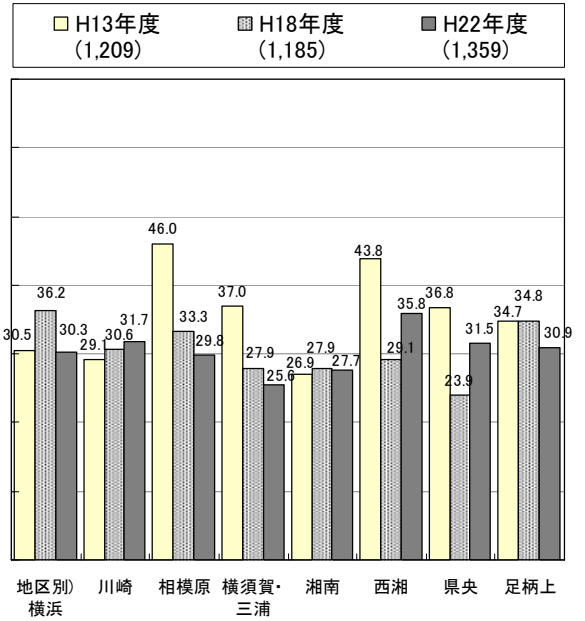


図19-3 友人・仲間との交流として

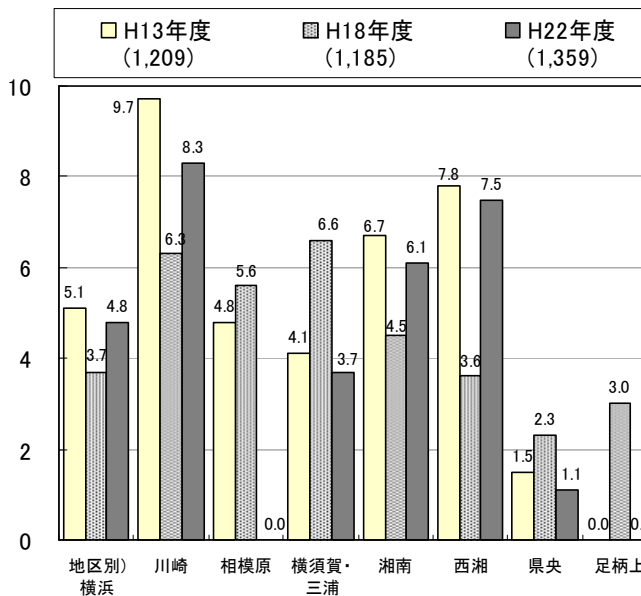


図19-4 自己の記録や能力を向上させるため

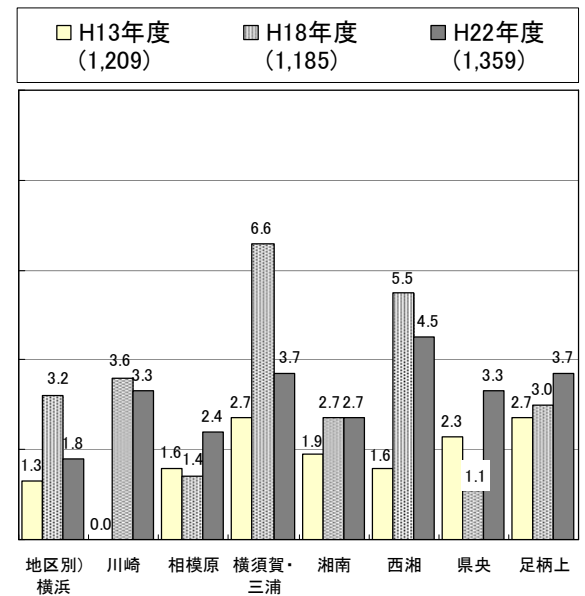


図19-5 精神の修養や訓練のため

図19-2～5は運動・スポーツをした理由における西湘地区に特徴がある項目の、地区別の時系列比較である。「健康・体力づくりのため」は平成13年度調査から今回平成22年度調査の間に19.1ポイントも上昇している。平成22年度は相模原地区に次いで59.7%と2番目である。「友人・仲間との交流として」は平成22年度調査において全体の割合としては低下傾向であるが、西湘地区は35.8%と最も高い。

これらのことから友人たちとの交流も目的にした、健康・体力づくりのためにより積極的に運動・スポーツを行っている西湘地区の方の様子が伺える。

また、運動・スポーツをした理由の中で全体の回答では低い割合のもの、西湘地区では「自己の記録や能力を向上させるため」は平成18年度調査において3.6%と低い値に減少したが、平成22年度調査においては7.5%と上昇し、川崎市に次いで2番目に高い割合である。

「精神の修養や訓練のため」は平成22年度調査において4.5%と他の地区が上昇していない傾向の中で最も高い。

これらのことから記録への挑戦を求めたり、自己の修練を目標としたりして、運動・スポーツ活動を実践している西湘地区の方の様子が伺える。

(3) 公共スポーツ施設への要望

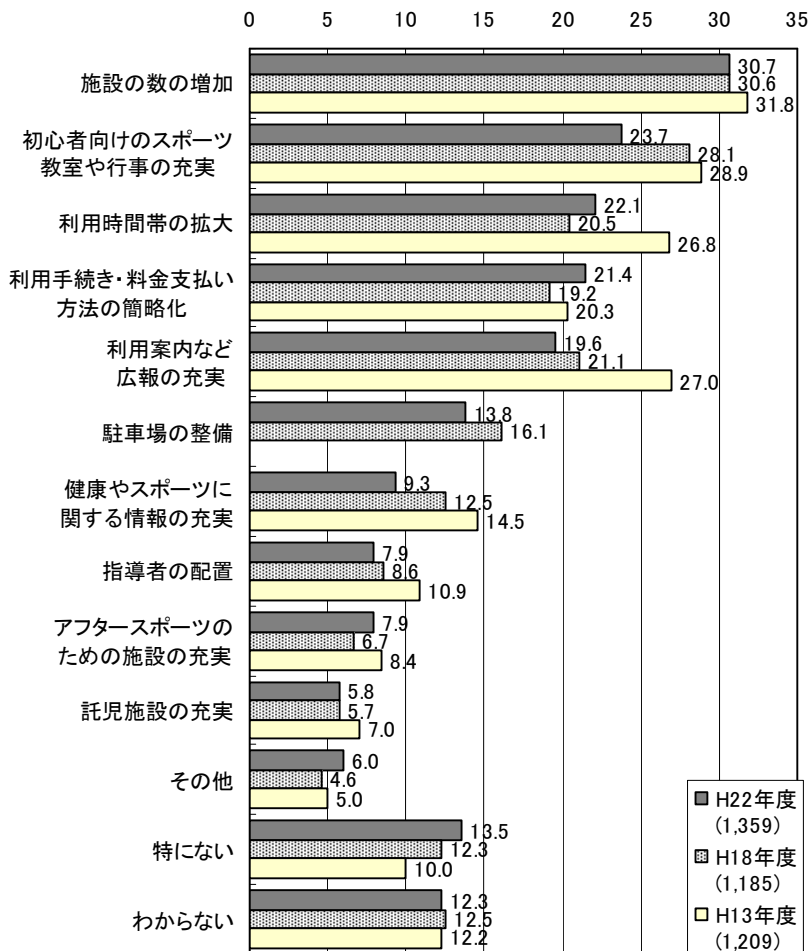


図20-1は公共スポーツ施設への要望（平成22年度：時系列比較）である。「施設の数の増加」が平成13年度調査では31.8%、平成18年度調査では30.6%、平成22年度調査においても30.7%と最も高い。「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」や「利用案内など広報の充実」「健康やスポーツに関する情報の充実」は減少傾向であ

図20-1 公共スポーツ施設への要望（平成22年度：時系列比較）

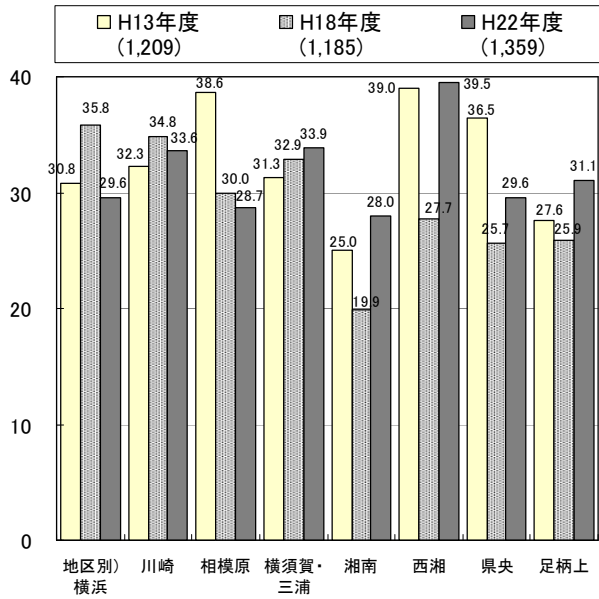


図20-2 施設の数増加

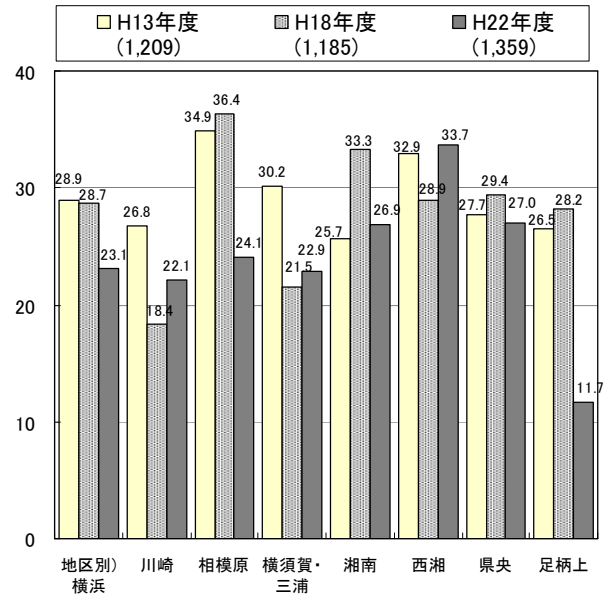


図20-3 初心者向けのスポーツ教室や行事の充実

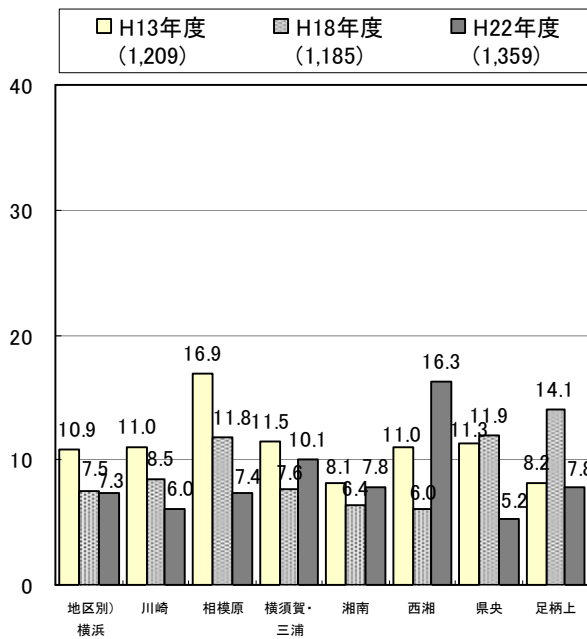


図20-4 指導者の配置

図20-2～4は公共スポーツ施設への要望における西湘地区に特徴がある項目の、地区別の時系列比較である。「施設の数増加」は平成22年度においては他の地区ではこの要望が上昇する傾向はあまり見られない中で、平成22年度調査では西湘地区が39.5%と最も高い。「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」は平成22年度調査において他の地区では30%以下であるのに対し、西湘地区は33.7%と最も高い。

これらのことから、運動・スポーツ活動のできる場所が増えることや、初めて運動・スポーツを行う際に適した教室や行事の開催を望んでいる西湘地区の方の様子が伺える。

「指導者の配置」は平成22年度調査においては全体として7.9%と減少傾向だが、西湘地区では16.3%と他の地区での割合に比べ最も高い。また、平成18年度調査と比べ10.3ポイント上昇している。運動・スポーツを行う際に適切な指導を受けたいと思っている西湘地区の方の様子が伺える。

(4) 今後設置を希望する公共スポーツ施設

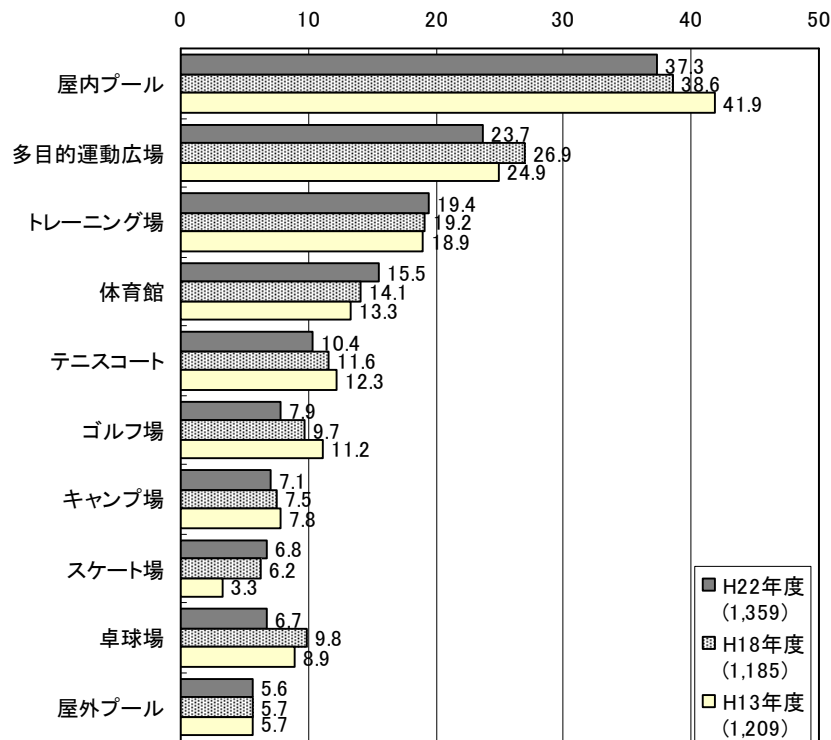


図21-1は今後設置を希望する公共スポーツ施設（平成22年度：時系列比較）である。

平成13年度調査では「屋内プール」は41.9%「多目的運動広場」は24.9%であり最も高かった。

平成18年度調査では「屋内プール」は38.6%「多目的運動広場」は26.9%であり最も高かった。

平成22年度調査においても「屋内プール」は37.3%「多目的運動広場」は23.7%と引き続き高い割合であるが減少傾向である。

図21-1 今後設置を希望する公共スポーツ施設（平成22年度：時系列比較）

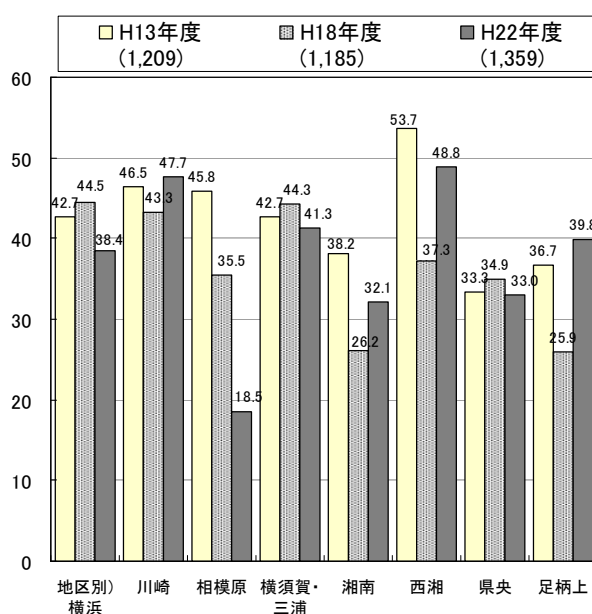


図21-2 屋内プール

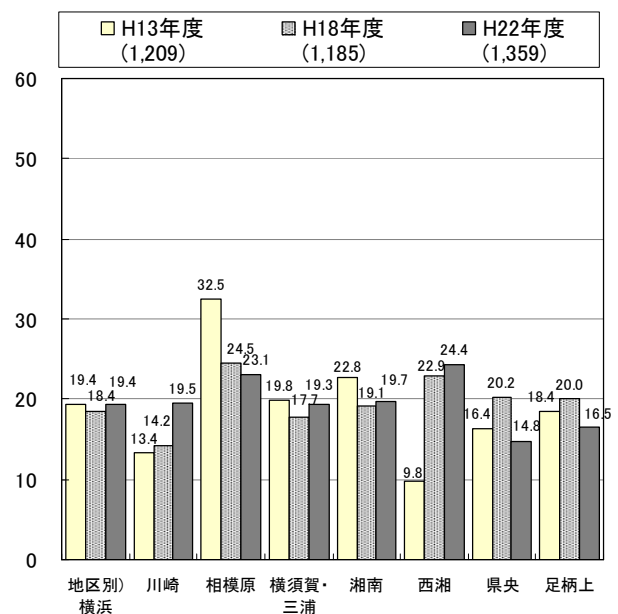


図21-3 トレーニング場

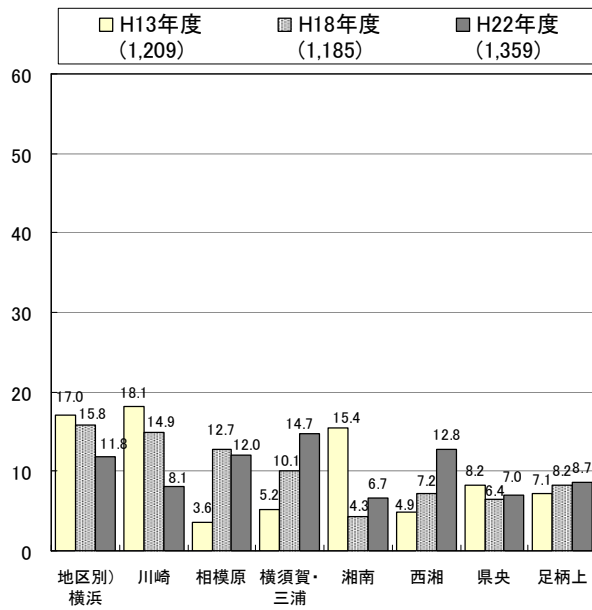


図21-4 テニスコート

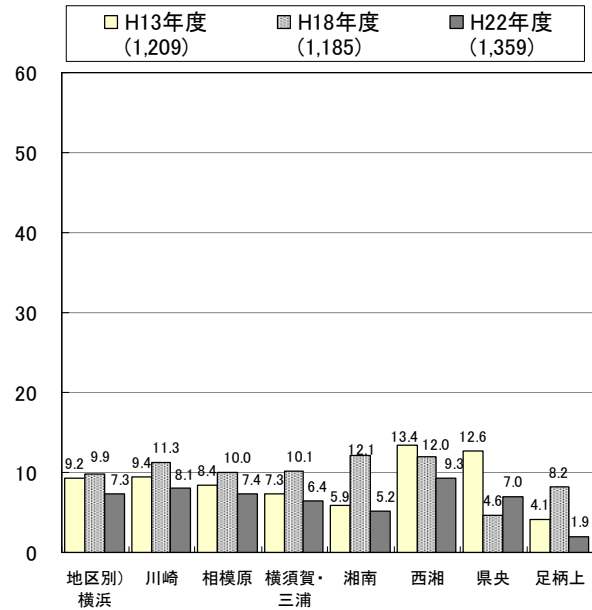


図21-5 卓球場

図21-2～5は今後設置を希望する公共スポーツ施設における西湘地区に特徴がある項目の、地区別の時系列比較である。「屋内プール」は平成13年度調査は53.7%、平成22年度調査は48.8%と西湘地区が最も高い。「トレーニング場」は平成13年度調査から今回平成22年度調査の間に14.6ポイントも増加している。

「テニスコート」は平成13年度調査から今回平成22年度調査の間に7.9ポイント増加している。「卓球場」は平成13年度調査、平成18年度調査、平成22年度調査ともに割合は低いが全地区の中で西湘地区が最も高い。

これらのことから、設置を希望する公共スポーツ施設には、水泳やトレーニングなどの個人で実施できる施設や、テニスや卓球などのグループで行う種目への需要が高く、これらの施設設置を望んでいる西湘地区の方の様子が伺える。

(5) 加入したい運動・スポーツクラブ等

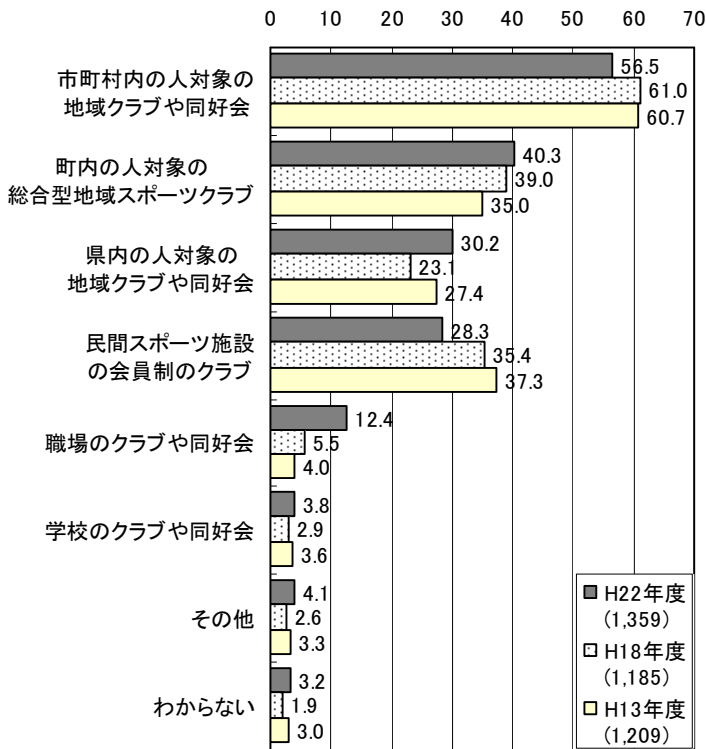


図22-1は加入したい運動・スポーツクラブ等（平成22年度：時系列比較）である。

平成13年度調査では「市町村内の人対象の地域クラブや同好会」が60.7%で最も高く、次いで「民間スポーツ施設の会員制のクラブ」は37.3%であった。

平成18年度調査では「市町村内の人対象の地域クラブや同好会」は61.0%で最も高く、次いで、「町内の人対象の総合型地域スポーツクラブ」であり39.0%であった。

平成22年度調査では「市町村内の人対象の地域クラブや同好会」は56.5%で、平成18年度調査61.0%より減少しているものの最も高く、次いで「町内の人対象の総合型地域スポーツクラブ」は40.3%であり調査を実施するたびに増加傾向である。

図22-1 加入したい運動・スポーツクラブ等（平成22年度：時系列比較）

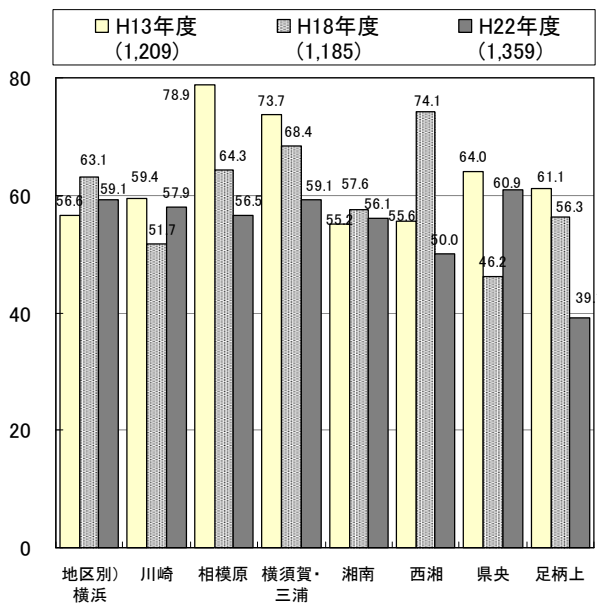


図22-2 市町村内の人対象の地域クラブや同好会

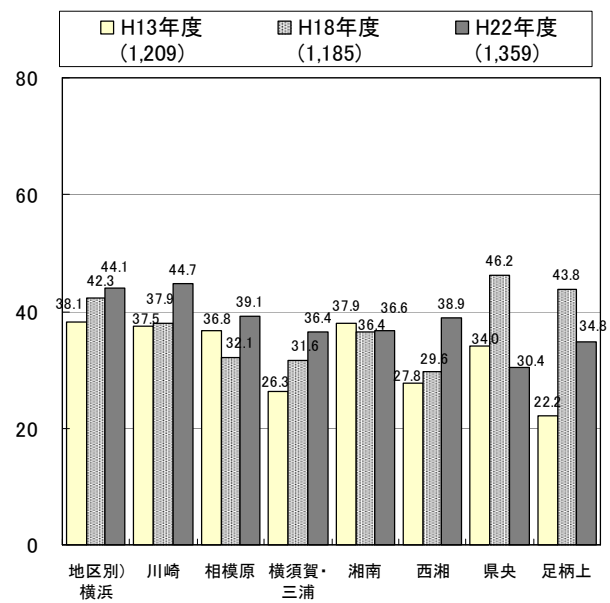


図22-3 町内の人対象の総合型地域スポーツクラブ

図22-2～3は加入したい運動・スポーツクラブ等（平成22年度：時系列比較）における西湘地区に特徴がある項目の、地区別の時系列比較である。「市町村内の人対象の地域クラブや同好会」は平成18年度においては74.1%と全体の61.0%より13.1ポイントも高い割合で

あり、平成13年度調査の西湘地区に比べ18.5ポイントも上昇している。ところが平成22年度調査では50.0%と24.1ポイントも大幅に減少しているが、「町内の人対象の総合型地域スポーツクラブ」は平成22年度調査においては38.9%と平成18年度調査に比べ9.4ポイント上昇している。

これらのことから平成18年度調査から平成22年度調査にかけて西湘地区の方は『加入したい運動・スポーツクラブ等』の傾向が「市町村内の人対象の地域クラブや同好会」から「町内の人対象の総合型地域スポーツクラブ」へ移行していることが考えられ、自主的なクラブ運営での運動やスポーツ活動を欲している傾向が見える。

(6) 総合型地域スポーツクラブの認知状況

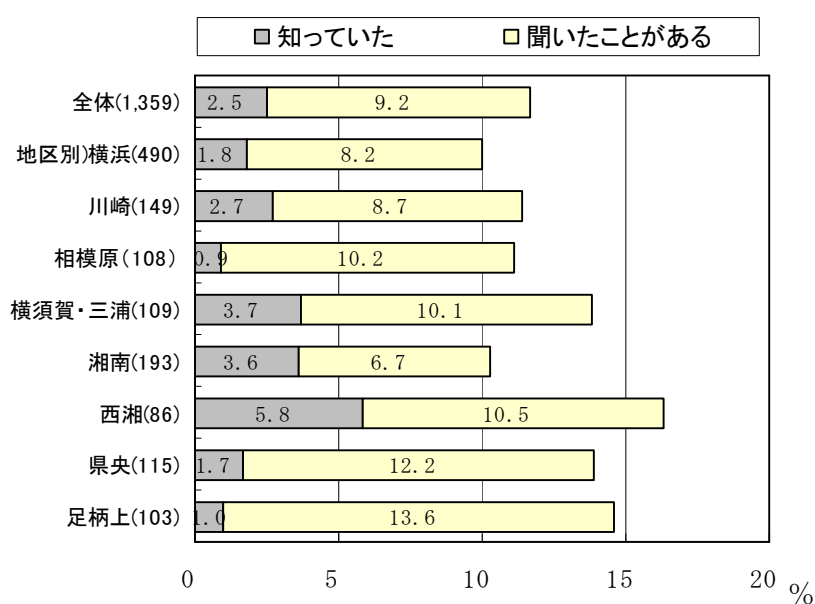


図23 総合型地域スポーツクラブの認知状況
(平成22年度)

図23は西湘地区の総合型地域スポーツクラブの認知状況（平成22年度）である。

※この設問は今回の平成22年度調査から設定された設問である。

総合型地域スポーツクラブを「知っていた」は西湘地区が5.6%と最も高い。「聞いたことがある」も西湘地区が10.5%と最も高い。

「知っていた」及び「聞いたことがある」を合すると西湘地区が16.3%と最も高く、西湘地区の総合型地域スポーツクラブは全県の中で最も認知されている。

平成22年度調査で取り上げたいいくつかの内容からまとめると、西湘地区には次の傾向が考えられる。まず、健康や体力については数年前までは高い意識ではなかったようだが、この4、5年で大きく意識が高まってきたことが考えられ、運動・スポーツ活動を行うことで自らを向上させたいという変化が伺える。次に一人で行う種目だけでなく、仲間で行える種目を実施したい。友人や仲間との交流も図りながら運動やスポーツ活動を実施したいという傾向が伺え、そのための活動ができる施設を要望している。そして、地域にあるスポーツクラブの中では、自分たちが主体となって運営していく多種目多世代多志向型の総合型地域スポーツクラブがよく知られ、総合型地域スポーツクラブへの加入の意向も高いと考えられる。これらの傾向がみられる背景には西湘地区では小田原市において、総合型地域スポーツクラブが平成19年度と20年度に2つ（小田原フレンドリークラブ、城下町スポーツクラブ）設立されたことが関係しているのではないかと考えられる。

西湘地区の方の「自らの意思で、健康を保ち体力を高めるために運動・スポーツ活動を行う」という意識とこの地区に2つの総合型地域スポーツクラブが設立され、その認知度が高まり活動をしていることとの相互作用が働き、前回平成18年度調査から今回平成22年度調査にかけて成人の週1回以上のスポーツ実施率が倍近く上昇したことに関連があるのではないかと考えられる。

【今後に向けて】

県のスポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」では、平成27年度を目処に成人の週に1回以上の運動・スポーツ実施率を50%以上にすると目標が掲げられている中で、今回調査で見えてきた世代間で最も低い実施率の30代と、地域間で最も高い実施率の西湘地区の傾向を示してきた。

まず、運動・スポーツ実施率の低い30代の方への実施率向上へ向けた取組みである。30代に顕著に見られる傾向や背景は、まだまだ若く元気で健康であるし、運動・スポーツ活動を実施しなくても健康を維持したまま生活できるであろうという将来へ向けた健康への過信と、精神的には職場や家庭においての立場から様々なストレスは大きく、精神的な疲労感を強く抱えている現状がある。また、仕事や家庭生活の中から常に忙しいと感じ、運動・スポーツ活動を実施したくてもとても難しいと考えている傾向が伺える。運動・スポーツ活動を実施する場合でも、個人や家庭内で取り組みやすく、安価で、子どもと一緒に活動することのできる水泳やテニス・キャンプなどをイメージしている傾向がある。この様な状況から、親子でのコミュニケーションをより強調した取組みや運動・スポーツ活動（ファミリーコミュニケーション運動やスポーツコミュニケーションデー、また県民スポーツ週間スポーツフェスティバル等）の身近な施設での実施や充実等が一層大切で重要になってくると考えられる。

また、今回調査の30代に限って見られる要因については、今からの運動・スポーツ活動が今後40代50代となっていく課程で健康を維持していくために大変重要であることや、運動・スポーツ活動を注視し・興味を持てるような啓発活動を併せて実施していくことが必要であると考えられる。

次に、運動・スポーツ実施率が高かった西湘地区の方に見られる、健康志向への意識の変容や、常に運動・スポーツ活動を自ら実践していく前向きな取組み姿勢を全県に発信していく必要があると考えられる。与えられ用意された運動・スポーツ活動から、自主的にクラブを創り運営し活動していく一連の流れを体験することで、世代間や地域間の交流の重要性も理解し、地域コミュニティとしての要素も盛り込まれ、充実した満足感の得られる運動・スポーツ活動へと変化していく大切さを、さらに普及・啓発していく必要があると考えられる。これらのひとつの形として総合型地域スポーツクラブの創設、普及・定着があり、運動・スポーツ実施率向上に重要な意味のある活動になるのではないかと考えられる。

これらのことを踏まえ、今回の調査や本研究が、各世代・各地域へフィードバックされ、少しでも成人の週に1回以上の運動・スポーツ実施率向上へ向けた取組みとなり、今後のスポーツ振興施策作成等へ役立てていただければ幸である。

【参考文献】

- 1) 体力・スポーツに関する世論調査（内閣府大臣官房政府広報室，2009，2006，2004，2000）
- 2) アクティブかながわ・スポーツビジョン（神奈川県・神奈川県教育委員会，2004）
- 3) アクティブかながわ・スポーツビジョン第3章改訂版（神奈川県・神奈川県教育委員会，2008）
- 4) スポーツ振興基本計画（文部科学省，2006）